

# 付 属 資 料

## 付属資料の目次

<b>1. 公共施設等案内</b>	145
1 市の施設等	145
2 小学校	146
3 中学校・高等学校	147
4 幼稚園・保育園・老人ホーム等	147
5 警察署・消防署	149
6 郵便局	149
7 鉄道・モノレール駅	149
8 都の関係施設	149
9 その他の施設	150
10 一部事務組合等	150
<b>2. 市の沿革</b>	151
<b>3. 市のあゆみ</b>	155
<b>4. 憲章・都市宣言</b>	175

# 1. 公共施設等案内

## 1 市の施設等

(令和元年10月1日現在)

名称	所在地	電話	F A X
東大和市役所	中央3-930	042-563-2111	042-563-5931
市立中央公民館	中央3-926	042-564-2451	042-563-5934
市立狭山公民館	狭山3-1344-1	042-565-2700	042-565-2858
市立蔵敷公民館	蔵敷2-337	042-566-0551	042-566-0552
市立中央図書館	中央3-930	042-564-2454	042-564-2425
学校給食センター	桜が丘2-142-41	042-564-1282	042-564-2228
奈良橋市民センター ならはし児童館 学童保育所第一クラブ 老人福祉センター 奈良橋地区会館 高齢者見守りぼっくす ならはし	奈良橋4-600	042-562-3600 042-562-3600 042-565-7373 042-562-3600 042-562-3600 042-566-8871	042-562-3704 042-562-3704 042-562-3704 042-562-3704 042-562-3704 042-569-8657
南街市民センター なんがい児童館 学童保育所第二クラブ 南街公民館(地区会館)	南街5-32	042-567-2441 042-567-2441 042-564-6176 042-564-2771	042-590-7010
上北台市民センター かみきただい児童館 学童保育所第十クラブ 上北台老人福祉館 上北台公民館(地区会館)	上北台2-865-9	042-567-2691 042-567-2884 042-565-1900 042-567-2691 042-567-2691	042-567-3365
桜が丘市民センター さくらがおか児童館 桜が丘集会所 桜が丘図書館	桜が丘3-44-13 22号棟(1・2階)	042-567-2237 042-567-2237 042-567-2237 042-567-2231	042-567-2238 042-567-2238 042-567-2238 042-567-2230
向原市民センター むこうはら児童館 学童保育所第五クラブ 向原老人福祉館 向原地区会館	向原3-10 16号棟1階	042-565-4111 042-563-1858 042-565-4140 042-565-4111 042-565-4111	042-563-1879
清原市民センター 清原老人福祉館 清原地区会館 清原図書館	清原4-1 16号棟1階	042-564-2940 042-564-2940 042-564-2940 042-564-2944	042-564-2952 042-564-2952 042-564-2952 042-564-2965
新堀地区会館 高齢者見守りぼっくす しんぼり	新堀3-6-1	042-565-4873 042-516-9916	042-561-9646 042-516-9987
市民会館(ハミングホール)	向原6-1	042-590-4411	042-590-4412
市立休日急患診療所	立野1-16-1	042-564-8181	—
市立保健センター	中央3-918-1	042-565-5211	042-561-0711
子ども家庭支援センター (かるがも)	立野1-16-1	042-565-3651	042-565-3652
市立やまとあけぼの学園	新堀1-1523-2	042-564-5923	042-564-2115
南街老人福祉館	南街6-30-1	042-565-4736	—

名 称	所 在 地	電 話	F A X
芋 窪 老 人 集 会 所	芋窪 4-1435	042-564-3983	—
きよはら児童館 学童保育所第三クラブ 学童保育所第六クラブ	清原 2-1	042-565-6021 042-561-1180 042-564-9794	042-565-6021 042-561-1180 042-564-9794
学童保育所第四クラブ	狭山 5-1054-1	042-564-2660	042-564-2660
学童保育所第七クラブ	芋窪 5-1183-1	042-565-4114	042-565-4114
学童保育所第八クラブ	立野 3-1246-1	042-565-8003	042-565-8003
学童保育所第九クラブ	蔵敷 2-546	042-564-9745	042-564-9745
学童保育所桜が丘クラブ	桜が丘 2-222-11	042-562-7725	042-562-7725
市立郷土博物館	奈良橋 1-260-2	042-567-4800	042-567-4166
Rondみんなの体育館※ (市民体育館)	桜が丘 2-167-13	042-566-3531	042-566-3532
Rondみんなのプール※ (市民プール)	桜が丘 2-167-13	042-565-0061	—
Rond桜が丘フィールド※ (市立桜が丘市民広場)	桜が丘 2-142-2	042-564-2722	—
上仲原公園管理事務所	向原 1-1	042-564-0931	—
狭山緑地管理事務所	奈良橋 1-249-1	042-565-0593	—
清水集会所	清水 2-928-1	042-564-3128	—
芋窪集会所	芋窪 4-1553-4	042-567-3043	—
仲原集会所	仲原 2-2-12	042-562-7575	—
湖畔集会所	湖畔 2-1044-234	042-566-5510	—
玉川上水集会所	桜が丘 4-29-17	042-563-0271	—

※東大和市体育施設等ネーミングライツ協定書により愛称を使用

## 2 小学校

(令和元年10月1日現在)

校 名	所 在 地	電 話	F A X
市立第一小学校	奈良橋 4-573	042-561-2321	042-590-7018
第二小学校	南街 3-61-2	042-561-2322	042-590-7019
第三小学校	清原 4-1312-2	042-561-2323	042-590-7020
第四小学校	狭山 5-1038	042-562-1982	042-590-7021
第五小学校	向原 1-11	042-562-1981	042-590-7022
第六小学校	仲原 1-5-1	042-562-1158	042-590-7023
第七小学校	芋窪 5-1171	042-563-3831	042-590-7024
第八小学校	立野 3-1255	042-564-1280	042-590-7025
第九小学校	蔵敷 2-546	042-564-3251	042-590-7026
第十小学校	上北台 3-399	042-565-7617	042-590-7027

## 3 中学校・高等学校

(令和元年10月1日現在)

校名	所在地	電話	F A X
市立第一中学校	奈良橋3-530	042-561-2326	042-590-7028
第二中学校	南街3-60-4	042-561-2328	042-590-7029
第三中学校	仲原2-7	042-564-5411	042-590-7030
第四中学校	立野2-6-2	042-564-8511	042-590-7031
第五中学校	芋窪5-1119	042-561-0050	042-590-7032
都立東大和高等学校	中央3-945	042-563-1741	042-565-0781
都立東大和南高等学校	桜が丘3-44-8	042-565-7117	042-565-2895

## 4 幼稚園・保育園・老人ホーム等

(令和元年10月1日現在)

区分	名称	公私別	所在地	電話	F A X
幼稚園	狭山ヶ丘幼稚園	私立	高木1-87-1	042-562-0661	042-565-0120
	大和富士幼稚園 (東大和こども園)	〃	向原4-16-17	042-561-2379	042-561-2441
	大和八幡幼稚園	〃	奈良橋1-258	042-561-4433	042-561-4433
保育所 (認可 保育園)	市立狭山保育園	市立	狭山1-849-1	042-564-2296	042-564-2296
	高木保育園	私立	向原6-1(20号棟)	042-562-1260	042-562-4076
	向原保育園	〃	向原1-4-2	042-563-3833	042-565-4582
	れんげ桜が丘保育園	〃	桜が丘3-44-18 17-1	042-567-4381	042-590-7014
	れんげ保育園	〃	芋窪3-1615	042-565-3342	042-533-5611
	れんげ南街保育園	〃	南街4-3-1	042-561-2341	042-561-2342
	大和南保育園	〃	清原3-1	042-565-3450	042-566-5750
	大和東保育園	〃	清原2-2-2	042-561-2958	042-563-9657
	紫水保育園	〃	清水3-859-7	042-561-1478	042-561-1478
	れんげ上北台保育園	〃	蔵敷3-691-2	042-563-3990	042-561-5487
	上北台こひつじ保育園	〃	上北台2-886-36	042-564-4958	042-565-4387
	のぞみ保育園	〃	中央2-858-1	042-564-1961	042-566-0568
	明德保育園	〃	立野2-3-7	042-562-1336	—
	立野みどり保育園	〃	立野3-580-2	042-565-3549	042-565-3565
	谷里保育園	〃	狭山3-1349-4	042-566-0321	042-566-0330
玉川上水保育園	〃	桜が丘4-29-18	042-566-8670	042-566-8671	
のぞみ保育園分園	〃	中央4-1023-4	042-569-8331	042-569-8332	
認定 こども園	こども学園	〃	奈良橋2-409	042-564-3549	042-564-3515
	東大和こども園 (大和富士幼稚園)	〃	向原4-16-17	042-561-2379	042-561-2441
小規模保育	東大和早樹保育園	〃	向原6-1201-119	042-516-8625	042-516-8626
	れんげ第二桜が丘保育園	〃	桜が丘3-44-32 3-103	042-516-8155	042-569-8398
	ふたば保育園	〃	立野2-4-13	042-590-8622	042-567-0081
	みつば保育園	〃	立野3-1293-10	042-590-1675	042-590-1676
	向原第二保育園	〃	向原1-4-1	042-843-9619	042-565-4582

区 分	名 称	公私別	所 在 地	電 話	F A X
家庭的保育	ひ が 保 育 マ マ	私立	中央 2-1101-12 107 号室	090-6532-0321	—
	木 村 保 育 マ マ	〃	南街 2-20-3 102 号室	090-5577-0853	—
子 育 て ひ ろ ば	大和南保育園内 子育てひろば (子育て支援センターぽけっと)	〃	清原 3-1	042-565-3450	042-566-5750
	れんげ上北台保育園内 子 育 て ひ ろ ば	〃	蔵敷 3-691-2	042-563-3990	042-561-5487
	玉川上水保育園内 子育てひろば ( に こ に こ 広 場 )	〃	桜が丘 4-29-18	042-566-8672	042-566-8671
民間学童 保 育 所	立野第一学童クラブ	〃	立野 3-1293-10	042-843-5717	042-843-5717
	立野第二学童クラブ	〃	立野 3-1293-10	042-843-5817	042-843-5817
老 人 ホ ー ム	特別養護老人ホーム向台老人ホーム	〃	芋窪 3-1638-2	042-562-6787	042-564-1301
	特別養護老人ホームさくら苑	〃	桜が丘 2-122-4	042-564-3939	042-562-1293
	特別養護老人ホームやまと苑	〃	狭山 2-1264-5	042-563-8181	042-565-5170
	特別養護老人ホーム風の樹	〃	蔵敷 3-873-1	042-561-3855	042-561-1356
	特別養護老人ホームは～とふる	〃	桜が丘 2-53-6	042-516-3985	042-516-3986
高 齢 者 在 宅 サ ー ビ ス セ ン タ ー	サービスセンターさくら苑	〃	桜が丘 2-122-4	042-566-3910	042-567-3967
	サービスセンターやまと苑	〃	狭山 2-1264-5	042-563-8163	042-565-5170
	在宅サービスセンター向台	〃	芋窪 3-1611-1	042-563-8775	042-590-3287
	高齢者在宅サービスセンターむこうはら	市立 (指定管理者制度)	向原 3-10 13 号棟 1 階	042-567-5855	042-567-5825
	高齢者在宅サービスセンターきよはら	〃	清原 1-1 34 号棟 1 階	042-590-1176	042-590-1186
地域包括支 援センター	高齢者ほっと支援センターいもくぼ	市委託事業	芋窪 3-1611-1	042-563-8777	042-590-3287
	高齢者ほっと支援センターきよはら	市立 (指定管理者制度)	清原 1-1 34 号棟 1 階	042-590-1138	042-590-1186
	高齢者ほっと支援センターなんがい	市委託事業	南街 2-49-3	042-566-8133	042-566-8134
見 守 り ぼ っ く す	高齢者見守りぼっくす ならはし	市委託事業	奈良橋 4-600 奈良橋市民センタ ー2 階	042-566-8871	042-569-8657
	高齢者見守りぼっくす しんぼり	市委託事業	新堀 3-6-1 新堀地区会館 2 階	042-516-9916	042-516-9987
	高齢者見守りぼっくす なんがい	市委託事業	南街 2-49-3 在宅サポートセ ンター1 階	042-590-1330	042-566-8134
児 童 養 護 施 設	れ ん げ 学 園	私立	芋窪 5-1161-3	042-565-8451	042-563-8078
総 合 福 祉 セ ン タ ー	総 合 福 祉 セ ン タ ー は ～ と ふ る	市委託 事業 他	桜が丘 2-53-6	042-516-3981	042-516-3984
地域生活援助	地域生活支援センター ウェルカム	市委託事業	中央 3-912-3	042-564-0891	042-564-3680

## 5 警察署・消防署

(令和元年10月1日現在)

区分	名称	所在地	電話	F A X
警察署 交番 駐在所	東大和警察署	芋窪 6-1061-1	042-566-0110(代)	042-562-4160
	南街交番	南街 5-1-1		
	けやき通交番	仲原 1-5-2		
	奈良橋交番	奈良橋 6-731-4		
	玉川上水駅前交番	桜が丘 3-44-1		
	芋窪駐在所	芋窪 3-1715		
	蔵敷駐在所	蔵敷 1-476-3		
	高木駐在所	高木 2-172-3		
消防署	村山貯水池駐在所	多摩湖 4-683		
	北多摩西部消防署	上北台 1-956-1 ※	042-565-0119	042-564-0119
	北多摩西部消防署東大和出張所	仲原 3-2-6	042-562-0119	042-562-3404

※庁舎改築のため、令和3年中旬頃まで仮庁舎（桜が丘 3-44-41）に移転

## 6 郵便局

(令和元年10月1日現在)

名称	所在地	電話	F A X
武蔵村山郵便局	武蔵村山市学園 3-24-1	042-567-0716	042-566-5503
大和郵便局	東大和市奈良橋 5-775	042-561-4950	042-566-4392
東大和南街郵便局	〃 南街 5-64-9	042-561-4951	042-566-4391
武蔵大和駅前郵便局	〃 清水 3-799	042-561-4958	042-561-7882
東大和清水郵便局	〃 清水 6-1190-2	042-561-4977	042-566-3710
東大和芋窪郵便局	〃 芋窪 1-2079-2	042-561-4959	042-566-2654
東大和向原郵便局	〃 向原 3-816-60	042-561-4957	042-566-4393
東大和上北台郵便局	〃 上北台 1-4-12	042-563-1191	042-561-7872
東大和新堀郵便局	〃 新堀 3-11-13	042-565-9302	042-565-9307

## 7 鉄道・モノレール駅

(令和元年10月1日現在)

区分	名称	所在地	電話	F A X
西武鉄道	東大和市駅	東大和市桜が丘 1-1415-1	042-561-1076	—
	玉川上水駅	立川市幸町 6-36-1	042-536-0922	—
	武蔵大和駅	東村山市廻田町 3-9-19	042-391-6389	—
多摩モノレール	上北台駅	東大和市上北台 1-742	042-526-7800	立川北駅 042-523-0332
	桜街道駅	〃 上北台 3-470	042-526-7800	
	玉川上水駅	〃 桜が丘 4-19	042-566-0881	

## 8 都の関係施設

(令和元年10月1日現在)

名称	所在地	電話	F A X
東京都交通局早稲田自動車営業所青梅支所大和操車場	奈良橋 6-772-1	042-561-3215	042-561-3215
東大和療育センター	桜が丘 3-44-10	042-567-0222	042-567-0224
北多摩看護専門学校	桜が丘 3-44-10	042-567-0331	042-567-0336

9 その他の施設

(令和元年10月1日現在)

名 称	所 在 地	電 話	F A X
東京みどり農業協同組合 東大和支店	奈良橋 4-602	042-561-4321	042-564-5040
社会福祉法人 東大和市社会福祉協議会	中央 3-912-3	042-564-0012	042-564-3680
東大和市商工会	中央 3-922-14	042-562-1131	042-562-1530
公益社団法人 東大和市シルバー人材センター	中央 3-912-3	042-565-0531	042-566-2308

10 一部事務組合等

(令和元年10月1日現在)

名 称	所 在 地	電 話	F A X
東京市町村総合事務組合	府中市新町 2-77-1 東京自治会館内	042-384-5515	042-386-2919
東京都市町村議会議員 公務災害補償等組合	府中市新町 2-77-1 東京自治会館内	042-384-8041	042-384-7004
東京都市町村職員 退職手当組合	府中市新町 2-77-1 東京自治会館内	042-384-8041	042-384-7004
昭和病院企業団	小平市花小金井 8-1-1	042-461-0052	042-464-7912
湖南衛生組合	武蔵村山市大南 5-1	042-561-1551	042-565-2971
小平・村山・大和衛生組合	小平市中島町 2-1	042-341-4345	042-343-5374
東京たま広域資源循環組合	西多摩郡日の出町大字大久野 7642	042-597-6151	042-597-7886
東京都後期高齢者 医療広域連合	千代田区飯田橋 3-5-1 東京区政会館 15階~17階	0570-086-519	0570-086-075



## 2. 市の沿革

### 【1 赤土の中の文化】—旧石器時代

2万年～1万年前

私たちのまち、東大和市に人間が住みはじめたのは、今からおよそ2万年前の旧石器時代と考えられている。現在の村山貯水池内からは当時の精巧な石器が見つかった。

当時は氷河期の終わりにあたり、富士山が形成された時代でもある。そのころの人々の生活は狩りや植物の採集が中心で、土器はまだ発明されていなかった。奈良橋の空堀川南岸にある丸山遺跡からは、当時の人々が残した調理遺構や石器が見つかった。

これらの遺跡は、関東平野周辺の山々の噴出灰が積み重なってできた赤土（関東ローム）の中から発見されるので、“赤土の中の文化”と呼ばれている。

### 【2 狩りと採集】—縄文時代（新石器時代）

1万年～2,400年前

縄文時代に入ると、気候はしだいに温暖となり、食料となる動植物も豊富になったと想像されている。

このころ、土器が発明され、食料の保存や調理が飛躍的に進歩したと考えられている。多くは縄目を施した土器が使われていたため、現在ではこの時代を縄文時代と呼んでいる。

縄文時代はおおよそ8,000年から1万年も続くといわれるが、1万年前から6,000年前の土器や石器は、現在のところ多摩湖遺跡群や芋窪の鹿島台西遺跡など、わずかな遺跡で見つかったにすぎない。

その後5,000年前から4,000年前になると、人々のくらしの痕跡を残す遺跡が市内各所に見受けられるようになり、人口が増加したと考えられている。しかし、その多くは狭山丘陵やその周辺に限られていた。

人々は地面に直径3メートルから5メートル程度の円形の穴を掘り、その上に屋根をかけたいわゆる「竪穴住居」に住んでいた。自然の動植物に依存して暮らし、数軒の家により構成された集落を形成していたことが、八幡谷戸遺跡や鹿島台遺跡の調査からわかっている。

ところが、今から4,000年前以降の縄文時代後期

と呼ばれるころの遺跡は激減し、2,400年ほど前の縄文時代晩期と呼ばれる時代の遺跡は、現在のところ東大和市内では見つかっていない。約5,000年前に一斉に花開いたかのような縄文文化は、その後衰退し、途絶えてしまうのである。

なぜ人々が減少するのかについては諸説あるが、食料の確保の方法が根本的に変化し、それに見合った土地に人々が徐々に移動したためとも考えられている。

### 【3 食料栽培＝米づくり】—弥生時代

2,400年～1,700年前

集団で食料を均等に分け合う生活をしていた縄文時代が終わると、米を中心とした食料栽培が始まり、集落のなかで富の格差が生まれるようになる。

今日の研究では、稲作は一部縄文時代からはじまっていたことがわかっており、また北九州から日本各地に稲作が伝播したという従来の定説を覆す発見も相次いでいる。しかし、土器の形状などからも明らかに縄文時代とは異なる文化がひろがったことに違いはない。

現在のところ、東大和市内では、稲作がおこなわれていたことを示す遺跡はもとより、弥生土器の破片さえも見つかっていない。しかし、隣接する武蔵村山市では当時の遺構や土器が発見されており、人跡がまったく途絶えたわけではないと考えられるが、人口の激減は、多摩地域全体に共通するものであった。

### 【4 権力者の出現と辺境の多摩】—5世紀

4世紀末から5世紀になると、畿内を中心とする大和政権が成立し、関東地方にも在地の支配者の墓である全長100メートルに及ぶ巨大古墳が築かれるようになった。支配する者とされる者との構造が明確になってきた時代である。

東大和市では古墳は見つかっておらず、こうした権力支配がまだ及ばない辺境の地だったと思われる。

### 【5 国分寺の造営と2メートル四方の家】

—7世紀～8世紀

7世紀半ばの大化の改新を経て、奈良時代に入ると、現在の府中市には中央政府が武蔵国を統治するための「国府」が置かれた。また国分寺市には、全国一の規模と推定される「武蔵国分寺」が建立され、仏教思想に基づく国内統治が図られた。

この時期になると、古墳時代のような大規模な古墳は全国的に姿を消し、石を積んだ小規模な古墳が造られるようになった。これは渡来人がもたらした仏教の影響によるものと考えられている。渡来人は、新たな作陶技術や機織りを伝えるなど、古代日本の社会や文化の形成に大きな役割を果たしている。

また、国府や国分寺の造営と共に、国内支配のひとつとして街道の整備が行われた。狭山丘陵の東側にあたる現在の所沢市から東村山市をとおり、府中街道へとつながる東山道にも集落が形成され、市が開かれるなどの賑わいをみせたと考えられている。

しかし、多摩湖遺跡群から見つかった当時の住居跡は2メートル四方の粗末な家で、大多数の人々のくらしはいまだつましいものであったと思われる。

#### 【6 牧場と武蔵武士】—9世紀～11世紀

天長10年(833年)、現在の東村山市と所沢市の境に「悲田処」が設けられたと伝えられている(推定地は複数あり)。

悲田処は飢えに苦しむ旅人等の救護所であり、仏教思想に基づく布施所であった。

また、関東平野一帯は馬や牛を自然放牧するに適したところから牧場が発達した。この牧場を基盤として東国武士が発生し、いくつかの氏姓により結束して、その後の「武蔵七党」へと発展することとなった。

東大和市は、この武蔵七党のうち、狭山丘陵南麓に本拠をおいた村山党の勢力下にあったらしい。

#### 【7 武家政権の勃興】—12世紀～16世紀

武蔵七党の活動を背景として、関東地方では最初平氏が勢力を広めた。現在の東大和市内でも再び人々のくらしの痕跡を示す遺跡が多く見つかるようになる。

中央では藤原氏を中心とした貴族政治が徐々に

衰退しはじめ、これらに従う武士が勢力を強めて、貴族から武家の政治へと移っていった。

源平の合戦を経て源氏を中心とした武家政権の世の中になると、仏教信仰にも大きな変化が見られるようになる。

平安時代には貴族がその財力にものを言わせて寺社に建物を寄進し、功德を得ようとしたが、鎌倉時代に入ると武士は秩父地方などを主産地とする緑泥片岩(いわゆる「秩父石」)を使った「板碑」と呼ばれる石の塔婆をさかんにつくるようになる。東大和市内でも13世紀末から16世紀にかけての年号をもつ板碑が多数発見されている。

鎌倉時代から室町時代にかけて、乱立する武家たちの勢力争いが続くが、当時の東大和市が誰の勢力下にあったかははっきりしていない。しかし、現存する東村山市の正福寺千駄地蔵堂(15世紀初め)や芋窪の豊鹿島神社本殿(15世紀半ば)の建立などからもわかるように、これらを信仰する人々のくらしが息づいていたのも事実である。

#### 【8 江戸時代の到来と支配体制の強化】

—17世紀

徳川氏が政権を手中に収め、江戸が政治の中心となると、現在の東大和市付近も人馬の往来が激しくなった。江戸城の修復のために青梅から白壁用石灰を運ぶ青梅街道が整備されたのがその直接の理由である。

江戸幕府は農村支配の体制を強め、農民には荒地の開墾を奨励した。田畑の増加はそのまま幕府の財政基盤を安定化させることにつながったからである。

また、寛永18年(1641年)に東大和市を中心とする南北武蔵野は、尾張徳川家の鷹場に指定された。農地における年貢の上納とは別に、鷹場内の農民には様々な制約と共に鷹の餌とするための虫の上納等が義務づけられた。農民は農地と鷹場の二重支配に置かれることとなった。

#### 【9 新田の開発】—17世紀～18世紀

現在の東大和市周辺の新田(新畑)開発は、江戸時代中期が中心であった。

承応3年(1654年)、江戸市中の飲料水確保のため玉川上水が完成した。

翌年の承応4年(1655年)には、川越藩主松平信綱

が領地へ農業用水を流すため、玉川上水からの分水を願い出てこれが認められることとなった。野火止用水の開削である。用水は現在の東大和市と小平市の境を流れており、狭山丘陵から連なる畑地の開墾は、用水を境にしてとどまることとなり、現在の東大和市域の範囲をほぼ形づくる結果となった。

しかし、とりわけ集落に近い狭山丘陵周辺の土壌は酸性が強く、村々の田畑の地味は悪かった。現存する当時の検地帳を見ても、「下畑（下田）」「下々畑（下々田）」など、等級の低い（＝収穫量の低い）土地であることを表す文字が並んでおり、村々の生活は決して豊かではなかったことがわかる。

享保7年(1722年)には、幕府から新田開発奨励の通達が出され、18世紀末には、ほぼ現在の市域一帯が畑地として切り開かれた。

芋窪村の人々による現立川市内の芋窪新田の開発や、高木村の人々による現国分寺市高木町の開発など、狭山丘陵縁辺の村々から南へ出て新たな村をつくり、新田開発（実際には畑の開発）を行う例もあったが、多くは自らの土地に続く荒地を次々と開墾（切り添え開発と呼ぶ）した結果、村々は南北に長い姿となったのである。

#### 【10 近代社会の到来】—19世紀

明治維新となり、村々を取り巻く様々な社会構造は一気に変貌する。

明治4年(1871年)の廃藩置県制実施に伴い、東大和市は神奈川県に編入された。このころの東大和市は、芋窪、蔵敷、奈良橋、高木、清水、後ヶ谷、宅部（後ヶ谷、宅部の2村は明治8年（1875年）合併して狭山村となる）が独立してそれぞれ村を形成し、明治6年（1873年）には5つの小学校が建てられた。当時各村合計466戸、人口2,827人であった。

また明治11年（1878年）、多摩郡は東多摩、西多摩、南多摩、北多摩の4郡に分けられた。翌明治12年（1879年）、各村で村会議員選挙が行われ、村会が成立した。

さらに明治17年（1884年）には現在の東大和市域の6つの村では連合村会が成立し、連合戸長役場が高木村明楽寺跡に設けられた。このころ、全国的に町村の合併が推奨されたが、合併の機運は

まだ成熟しておらず、明治22年（1889年）になって高木村外五ヶ村組合が結成されることとなった。しかし、これは組合村と単独の村政運営の二重行政をもたらす結果となった。

このころ、現在の多摩地域を神奈川県から東京府に移管する計画が出され、当時盛んであった自由民権運動家を中心に広範な反対運動が起きた。しかし、明治26年（1893年）には東京府に編入されることとなった。

#### 【11 大和村の誕生】—20世紀

明治34年（1901年）、高木村外五ヶ村組合の合併問題が再び起こり、大正8年（1919年）になって戸数770戸、人口5,000人余りの大和村がようやく誕生することとなった。

当時の大和村は、畑作、養蚕を主とし、家内平織りばたを副業とする純農村であった。

村の成立に前後して、この静かな村の性格を変える特徴的なできごとがふたつ起こる。

#### 【12 村山貯水池の建設】

そのひとつは、村山貯水池の建設である。用地買収は大正2年（1913年）から始められたが、約3.2平方キロメートル（324町歩）が買収対象となり、160余戸の人々が移転を余儀なくされる結果となった。村山貯水池の建設は、都会の近代的な事物を村にもたらししたが、一方で古くから営々と築かれてきた村の営みを崩壊させるものでもあった。

#### 【13 軍需工場の建設】

もうひとつは、昭和13年（1938年）に村の南の無人の土地に戦闘機のエンジンを生産する軍需工場と、そこに働く社員の社宅が建設されたことである。

工場は7年間で約1万人の人口の社会増をもたらした。南街と呼ばれる新しいまちが生まれた。貯水池の建設とあわせて、大和村は純農村から都市化への道を歩みはじめた。

しかし、昭和20年（1945年）には工場を攻撃対象としたアメリカ軍の空襲を受け、工場は8割方壊滅し、111人の犠牲者を出す結果となった。

#### 【14 町制施行】

戦争が終わり、工場が一時的に閉鎖されると、

村の人口は激減した。その後おおよそ10年間は、人口は微増する程度で大きな変化はなかった。

そうしたなか、昭和29年（1954年）5月3日、世帯数2,500戸、人口13,000人余の大和町が誕生している。

### 【15 急速に進む都市化】

昭和33年（1958年）、清水の第一都営住宅をはじめとする3,300余戸に及ぶ都営住宅の建設が始まり、この後まちの南半部を中心とした宅地の開発や集合住宅の建設が相次ぎ、人口は増加した。

特に昭和40年代半ばの芝中住宅と上北台住宅の建設・入居が行われたところは、わずか6年間で小学校5校、中学校1校を建設するなど、人口の急増が目立ち、近隣の市や町と同様に、都心の「ベッドタウン」の様相を示すこととなった。

### 【16 市制施行】

昭和45年（1970年）10月1日には市制を施行し、同時に名称を「東大和市」と改めた。このときの世帯数は13,264戸、人口45,902人であった。

昭和48年（1973年）、このような宅地化の影響が農地にも波及したことから、宅地化の波と調和しながら農業経営を存続させ、居住者の生活環境の悪化を防ぐとともに、緑豊かなまちづくりを進めるため、市東南部の土地区画整理事業を行った。

また市街化の進展にもかかわらず、町割、地番振りが旧態依然として使用されていたため、約10年の歳月をかけて、昭和56年（1981年）9月に市内全域の町名地番整理事業を完了した。

### 【17 基本構想の策定（第一次）】

昭和57年（1982年）12月、21世紀の東大和を展望したまちづくりの目標とその達成のための基本的施策を明らかにした「東大和市基本構想」を策定した。またそれらを実現するための長期施策を体系化した「基本計画」を昭和59年（1984年）3月に、「第二次基本計画」を平成5年（1993年）4月に策定した。

### 【18 大和基地跡地の利用】

昭和48年（1973年）に全面返還された大和基地跡地は、その後利用が進み、昭和62年（1987年）に桜が丘住宅580戸が入居。平成元年（1989年）4月には基地跡地内の道路が供用開始となった。さらに平成2年（1990年）2月には玉川上水駅前広場が供用開始となり、同

年11月には残されていた留保地も解除となった。平成5年（1993年）3月から桜が丘住宅420戸の第2期入居が行われた。

### 【19 多摩モノレールの開通】

東大和市の上北台駅から多摩市の多摩センター駅を結ぶ新都市交通システムの多摩モノレールが、平成12年（2000年）1月に開通した（上北台駅—立川北駅間は、平成10年（1998年）に部分開業）。

多摩モノレールは多摩地域における初の南北の軌道交通路線であり、利便性は飛躍的に上がったといっ

てよい。市内には「上北台」「桜街道」「玉川上水」の3駅が設けられた。

また、モノレール建設にあわせて、平成5年（1993年）から上北台駅周辺区画整理事業を、平成7年（1995年）から立野一丁目土地区画整理事業を開始した。

### 【20 第二次基本構想の策定】—21世紀

平成13年（2001年）12月、21世紀初頭における市政運営の将来目標とそれを達成するための施策の大綱を定めた「東大和市第二次基本構想（平成14年～平成33年）」を策定した。またそれらを実現するための長期施策を体系化した「第三次基本計画（平成15年度～平成24年度）」を平成14年（2002年）12月に策定した。平成24年（2012年）12月には、第二次基本構想について、目標年次を平成33年度に延伸し、最大人口を見直す改訂を行うとともに、「第四次基本計画（平成25年度～平成33年度）」を策定した。

### 3. 市のあゆみ

#### 2万年～1万年前

すでに、旧石器時代に人が住んでいたことが、市内数か所から遺跡が発見されたことから推定できる

#### 慶雲4年(707)

豊鹿島神社が芋窪に建てられる(伝説)

#### 慶長8年(1603)

青梅街道整備・開通

#### 寛永18年(1641)

尾張徳川家の御鷹場に指定される

#### 承応3年(1654)

玉川上水完成

#### 明暦元年(1655)

野火止用水完成

#### 文政10年(1827)

組合村を設定後に蔵敷村組合となり、所沢寄場組合に属する

#### 慶応4年(1868)

7月 「江戸」を「東京」と改称

9月 「明治」と改元

#### 明治3年(1870)

蔵敷寄場組合、小川寄場組合に吸収される

#### 明治4年(1871)

4月 戸籍法布達される(翌年から戸籍編成始まる)

7月 廃藩置県行われる(11月完了、3府72県)

12月 蕪山県管轄の蔵敷村・奈良橋村・宅部村・後ヶ谷村・高木村・芋窪村・清水村が神奈川県に編入される

#### 明治5年(1872)

1月 品川県管轄の高木村・芋窪村・清水村の各一部が神奈川県に編入される

4月 名主の名称を廃し、戸長に統一(選挙により戸長・副戸長を決める)

8月 学制布告される

12月 太陽暦実施(大陰太陽暦を廃し、明治5年12月3日を明治6年1月1日と改正)

#### 明治6年(1873)

4月 区番組制により十一区十番組(高木村ほか6か村)に編成される

各村に小学校創立

小禎学舎(芋窪村・石井以豆美宅)

汎衆学舎(蔵敷村・太子堂)

巖玉学舎(奈良橋村・雲性寺)

竭力学舎(高木村・後ヶ谷・宅部村の一部、円乗院)

研精学舎(清水村・宅部村の一部、三光院)

7月 地租改正条例により、畑の一筆ごとの地価

調査を行う

11月 会所(扱所)を高木村の明楽寺に設ける(人口2,827人・戸数466)

#### 明治7年(1874)

6月 区番組制を大区小区制に改める(第十一大区、第十小区)

#### 明治8年(1875)

2月 後ヶ谷村・宅部村を合併し、狭山村となる

#### 明治9年(1876)

7月 巖玉学舎を奈良橋学校と改称

#### 明治10年(1877)

2月 竭力学舎と研精学舎を合併し、高狭学校と改称

9月 小禎学舎と汎衆学舎を合併し、昇隆学校と改称

#### 明治11年(1878)

7月 郡区町村編制法が制定され、北多摩郡に所属する(神奈川県北多摩郡は東多摩・西多摩・南多摩・北多摩の4郡に分かれる)

#### 明治12年(1879)

3月 芋窪・蔵敷・奈良橋・高木・狭山・清水の各村に戸長をおき、戸長役場を設ける

9月 教育令発布(公立学校設置、義務教育制確立)

#### 明治14年(1881)

11月 芋窪(5月)、狭山(9月)、奈良橋(11月)、政談演説(懇談会)が開かれる

#### 明治16年(1883)

1月 内務省戸籍局、明治15年7月1日調べの人口発表(総計約3,670万人)

#### 明治17年(1884)

7月 高木村外五ヶ村を連合し(各戸長役場を廃止)連合戸長役場を高木村の明楽寺におく(戸長官選となり、初代連合戸長に関田糸右衛門氏が任命される)連合村が成立する

#### 明治18年(1885)

12月 円乗院の本堂・庫裡焼失、高狭学校も焼ける

#### 明治19年(1886)

4月 小学校令発布(尋常科と高等科になる)

#### 明治20年(1887)

高狭学校を新築

#### 明治21年(1888)

4月 市制町村制公布(明治22.4.1施行)

#### 明治22年(1889)

2月 大日本帝国憲法発布(明治憲法)

4月 「高木村外五ヶ村組合」が成立（村長・助役・収入役各一人をおく）  
5月 15区を市とする東京市誕生  
奈良橋・雲性寺に駐在所をおく

**明治23年**（1890）  
5月 府県制郡制公布（地方自治法制の確立）  
（明治24. 4. 1施行）  
狭山の夜学会が始められる

**明治25年**（1892）  
蔵敷に火の見はしごと消防器具置場設置

**明治26年**（1893）  
4月 三多摩（西多摩・北多摩・南多摩郡～18町、160村）が神奈川県から東京府に編入される

**明治27年**（1894）  
2月 消防組創設される  
8月 日清戦争始まる  
狭山と蔵敷に駐在所がおかれる（奈良橋は廃止）蔵敷青年義団、清水青年会設立  
11月 昇隆学校を第一村山小学校、奈良橋学校を第二村山小学校、高狭学校を第三村山小学校と改称

**明治28年**（1895）  
各小学校の校名を尋常小学校と改称

**明治30年**（1897）  
狭山青年会設立

**明治31年**（1898）  
東京市役所開く（特別市政を脱し、自治市となる）

**明治33年**（1900）  
蔵敷で夜学会（攻玉社）の組織つくる

**明治34年**（1901）  
3月 「高木村外五ヶ村」の合併問題起こる

**明治37年**（1904）  
2月 日露戦争始まる  
奈良橋青年会設立

**明治38年**（1905）  
「高木村外五ヶ村組合」農会創設

**明治39年**（1906）  
5月 第一・第三村山尋常小学校に高等科設置

**明治40年**（1907）  
尋常小学校義務教育6年制高等小学校2年制となる  
高木青年会設立

**明治45年**（1912）  
村山貯水池建設決まる

**大正2年**（1913）  
不景気で村山緋は打撃を受け、廃業倒産多くなる

**大正3年**（1914）  
村山貯水池の用地買収始まる（324町歩160戸）  
芋窪青年会設立

**大正4年**（1915）  
12月 村山貯水池敷地内の住民移動開始、買収反対運動起こる

**大正5年**（1916）  
6月 村山下貯水池建設地鎮祭が行われる

**大正6年**（1917）  
木綿機から銘仙機へ移り始める  
実業補習学校設立  
電灯がつく

**大正8年**（1919）  
10月 村山上貯水池建設工事始まる  
11月 組合村を廃止し、六ヶ村を合併して大和村と命名（人口5,190人・戸数770戸）  
大和村青年会（各村青年会を統合）、大和村教育会を設立

**大正9年**（1920）  
9月 第二村山尋常小学校を廃止（分教場として第一・第三村山小学校高等科児童を収容）

**大正10年**（1921）  
実業補習学校を農業補習学校と改称

**大正11年**（1922）  
8月 蔵敷高札場が都文化財に指定される

**大正12年**（1923）  
3月 村騒動が起こり、職務管掌の状態となる  
第一・第三村山尋常小学校を合併し、村山尋常高等小学校と改称（奈良橋に新校舎新築）  
4月 郡制廃止  
9月 関東大震災

**大正13年**（1924）  
3月 村山上貯水池完成

**大正15年**（1926）  
9月 村山尋常高等小学校を大和尋常高等小学校と改称

- 10月 同校を増築  
大和村青年訓練所を設置
- 昭和2年**(1927)  
3月 村山下貯水池(多摩湖)完成
- 昭和4年**(1929)  
狭山織物同業組合設立
- 昭和5年**(1930)  
1月 多摩湖線開通(萩山駅~村山貯水池駅)
- 昭和7年**(1932)  
10月 東京市隣接5郡82町村を合併して20区新設  
(大東京市実現、人口500万人)
- 昭和8年**(1933)  
経済更生指定村に指定される
- 昭和9年**(1934)  
3月 大和尋常高等小学校を増築  
7月 大和郵便局開局
- 昭和10年**(1935)  
7月 青年訓練所と農業補習学校を廃止し、大和  
青年学校を設置
- 昭和11年**(1936)  
電話開通  
10月 東京市、追加拡張で隣接6郡の84町村を編入
- 昭和12年**(1937)  
5月 都立狭山公園開園
- 昭和13年**(1938)  
5月 東京瓦斯電立川工場を誘致(工場・社宅・  
寮建設始まる)  
南街駐在所開設
- 昭和14年**(1939)  
3月 消防組を改組し、警防団を設置  
5月 都市計画法により、立川都市計画区域とな  
る(立川町ほか10か町村)  
瓦斯電、日立製作所と合併して日立航空機  
立川工場となる
- 昭和15年**(1940)  
3月 役場を奈良橋に移転新築(人口8,929人・戸  
数1,408戸)  
9月 部落会・隣組・常会が設置される
- 昭和16年**(1941)  
4月 大和尋常高等小学校を大和国民学校と改称  
12月 太平洋戦争始まる
- 昭和18年**(1943)  
7月 東京都制施行
- 昭和19年**(1944)  
5月 大和国民学校増築  
9月 赤坂国民学校児童、蓮花寺に集団疎開
- 昭和20年**(1945)  
2月 日立航空機立川工場、米軍艦載機約50機の  
爆撃をうける(被爆3割に及ぶ)  
8月 終戦  
戦災孤児となった集団疎開の児童13人蓮花  
寺に入寮  
青年団結成
- 昭和22年**(1947)  
3月 大和青年学校廃止  
4月 六三制の実施により、大和中学校創立  
大和国民学校を大和小学校と改称  
第1回統一地方選挙(村議・村長選)実施(初  
代公選村長に内野禄太郎氏当選)  
5月 日本国憲法・地方自治法施行  
11月 消防団設置(定員480人)  
教育委員会発足  
12月 内務省解体  
大和村農地委員会発足  
大和村農業会を解散し大和村農業協同組  
合を設立
- 昭和24年**(1949)  
6月 地方自治庁発足
- 昭和25年**(1950)  
5月 西武鉄道上水線開通(小川駅~玉川上水駅)
- 昭和26年**(1951)  
大和村農地委員会を解散し、大和村農業委  
員会設立  
4月 村議・村長選実施  
(村長に内野禄太郎氏再選)
- 昭和27年**(1952)  
7月 大和小学校増築(北側校舎解体)同校30周  
年記念式典行う  
10月 大和村教育委員選挙執行  
11月 米軍兵舎建設用地決定の通知を受ける  
12月 米軍兵舎設置反対村民大会開く
- 昭和28年**(1953)  
4月 大和村青年学級開設  
5月 南街に大和小学校分校を開校
- 昭和29年**(1954)  
5月 町制施行(人口13,052人・世帯2,483)  
11月 警視庁立川警察署と警察消防共助協定締結

**昭和30年(1955)**

- 1月 初の成人式行われる(成人者182人)
- 2月 米軍大和基地補償問題妥結  
米軍大和基地設置される
- 4月 町議・町長選挙実施(町長に根岸昌一氏当選)昭和22年から8年間にわたり町政を担ってきた内野禄太郎氏勇退  
町の議員定員20人となる
- 7月 課制度を実施
- 9月 大和町日米連絡協議会発足

**昭和31年(1956)**

- 2月 大和小学校分校増築  
大和中学校移転新築第1期工事完成
- 3月 青年団解散
- 4月 大和町広報創刊  
大和第二小学校開校(大和小分校独立)  
大和小学校を大和第一小学校と改称
- 7月 大和中学校2期工事終る  
米軍大和基地と消防に関する相互応援協定結ぶ
- 9月 消防車(本部)購入
- 10月 任命制による教育委員会発足
- 12月 大和中学校講堂兼体育館できる

**昭和32年(1957)**

- 4月 郷土史編さんに着手  
大和町青年学級、都の指定学級となる
- 7月 公明選挙推進協議会できる  
空堀川改修工事終わる
- 11月 役場火の見やぐら(本部)できる
- 12月 第1次町営住宅(15戸)できる  
都市計画「狭山緑地」決定

**昭和33年(1958)**

- 2月 都営第1住宅(清水)できる
- 5月 芋窪火の見やぐら(第6分団)できる
- 6月 ロード・ローラー購入
- 7月 消防車(第2分団)購入
- 9月 初の町道舗装(富士見通り)工事完成  
二小拡張用地を買収  
西武多摩湖線新宿へ直通となる
- 11月 第2次町営住宅(20戸)できる

**昭和34年(1959)**

- 4月 町議・町長選挙実施(町長に根岸昌一氏再選)
- 6月 立川警察署大和部長派出所開設

- 7月 大和中プールできる
- 10月 第13回国民体育大会旗が町を通過  
第1回町民野球大会開く
- 11月 町民慰安演芸会開く
- 12月 人権身の上相談開設  
清水火の見やぐら(第1分団)できる

**昭和35年(1960)**

- 1月 消防団東京都消防協会竿頭綬を受ける  
第3次町営住宅(20戸)できる
- 2月 都営バス青梅支所大和町操車場できる  
都営バス(青梅～荻窪)阿佐ヶ谷まで延長
- 4月 大和国民健康保険事業始まる  
大和町共同作業所開設
- 5月 都営第2住宅(奈良橋)できる
- 9月 南街火の見やぐら(第7分団)できる
- 11月 町民慰安演芸会開く
- 12月 一小増築工事完成(西側校舎解体)

**昭和36年(1961)**

- 1月 消防車(第7分団)購入
- 2月 都営第5住宅(清水)できる
- 3月 奈良橋火の見やぐら(第4分団)できる
- 4月 大和中増築
- 5月 簡易水道事業の許可を得る  
都営第3住宅(高木)できる
- 6月 都営第6住宅(狭山)できる  
蔵敷火の見やぐら(第5分団)できる
- 7月 二小プールできる  
都営第4住宅(高木)できる
- 8月 消防車(第6分団)購入
- 10月 都市計画道路9路線決定、ほぼ現在の道路網となる  
都市計画公園12か所決定  
廻田風致地区決定
- 11月 健民祭開く(野球、排球、庭球、卓球、囲碁、将棋、レクリエーション、駅伝、展示)
- 12月 林道(狭山二ツ池～奈良橋)改良工事終る

**昭和37年(1962)**

- 1月 大和町青年研修所できる
- 2月 消防団日本消防協会竿頭綬を受ける
- 3月 殉国慰霊塔建立
- 4月 都市計画「東京街道団地」決定
- 6月 簡易水道送水場できる(新堀地区に給水はじまる)



- 第5投票区を増設
- 8月 選挙管理委員会自治大臣から感謝状を受ける  
都営第7住宅（高木）できる  
一小増築工事完成
- 9月 選挙管理委員会、都選管から表彰状を受ける  
西武上水線新宿へ直通となる
- 10月 奈良橋丁字路にはじめての自動交通信号機  
できる  
都営第8住宅（高木）できる
- 11月 健民祭開く（野球、排球、庭球、卓球、囲碁、将棋、レクリエーション、駅伝、展示）  
青年学級10周年記念式典行う
- 12月 上水道新設事業の認可を受ける

#### 昭和38年(1963)

- 4月 町章制定  
大和第三小学校新築開校  
町議・町長選挙実施（町長に根岸昌一氏三選）  
立川警察署南街派出所開設  
新青梅街道（清水～奈良橋）開通
- 6月 全町特別清掃地域の指定を受ける  
高木火の見やぐら（第3分団）を高木部落会  
から受納  
第2次都営第3・4住宅（高木）できる
- 7月 南街出張所開設  
ごみ収集事業始まる  
上水道2号井できる
- 11月 「大和町史」刊行  
芋窪地区に上水道給水始まる  
第6投票区を増設  
健民祭開く（野球、排球、庭球、卓球、囲碁、将棋、レクリエーション、駅伝、展示）  
最初の都市計画道路整備事業始まる

#### 昭和39年(1964)

- 2月 町民相談室開設  
消防団日本消防協会表彰旗を受ける  
光が丘団地宅地造成（3月から分譲始まる）
- 3月 三小増築工事完成  
西武バス立川～久米川線（東京街道団地経由）開設
- 4月 狭山火の見やぐら（第2分団）を狭山部落会  
から受納

- 5月 町制施行10周年記念式典行う
- 6月 都市計画道路20号線（1期）工事完成  
上水道管理事務所できる
- 7月 学童保育を実施  
都営東京街道団地（清水）できる
- 8月 大和第二中学校新築工事始まる（初の鉄筋・3階建・防音）  
大和町ガス普及会結成される
- 11月 豊鹿島神社本殿、都文化財に指定される

#### 昭和40年(1965)

- 2月 都市計画道路20号線（2期）工事完成  
人口3万人を超える  
小平・村山・大和衛生組合（ごみ処理）を  
設立
- 3月 都営東京街道団地に団地電話局開局  
富士見通り、都道交差点に2番目の自動交  
通信号機設置される  
東京都狭山青年の家できる  
町勢要覧「やまと」刊行
- 4月 二中開校  
大和中学校を大和第一中学校と改称
- 5月 湖南衛生組合（し尿処理）へ加入
- 6月 立川警察署清水派出所開設  
上水道3号井できる
- 7月 東村山と消防相互応援協定を結ぶ
- 8月 上水道3期工事完成
- 9月 清水出張所開設  
立川市・昭島市・村山町・国立町と消防相  
互応援協定結ぶ  
二小増築工事完成（鉄筋・3階建・防音）

#### 昭和41年(1966)

- 2月 小平市と消防相互応援協定結ぶ  
村山大和電報電話局開局  
諏訪山遺跡発掘調査行う
- 3月 都市計画道路20号線（3期）・21号線（2期）  
工事完成  
二中増築・二小防音改築1期工事完成（各鉄筋3階建・防音）
- 6月 都市ガス導入火入式行われる（南街支部）  
消防広報車購入配置
- 7月 農業委員選挙執行  
都営高木団地内に団地電話局開局
- 8月 ごみ焼却場（小平・村山・大和衛生組合）  
完成

- 9月 三小増築工事完成(鉄筋3階建・防音)  
消防可搬ポンプ車4台購入配置  
東京消防庁と消防相互応援協定締結

#### 昭和42年(1967)

- 1月 消防団2度目の東京都消防協会竿頭綬を受ける  
上水道4号井できる
- 2月 狭山近郊緑地保全区域決まる
- 3月 学校給食センター(第一学校給食センター)  
新築工事完成  
上水道新設5か年事業完了  
二小(2期)、一小(1期)防音改築工事完成  
(鉄筋3階建・防音)  
都市計画道路20号線(4期)・21号線(3期)  
工事完成  
湖南処理場(湖南衛生組合)増設工事完成  
村山町との境界変更決まる
- 4月 組織機構改革(福祉課、衛生課、防災課を  
新設)  
町議・町長選挙実施(町長に根岸昌一氏四選)  
上水道第1期拡張7か年計画事業始まる  
学校給食センター(第一学校給食センター)  
開設
- 7月 小型モーター・グレーダー購入  
三小プール完成
- 8月 第1回納涼民踊大会開く
- 9月 西武団地宅地造成完成(分譲始まる)
- 10月 上水道5号井できる  
第2光ヶ丘団地分譲始まる(43年5月宅地造成完成)
- 11月 都市計画道路21号線(4期)工事完成
- 12月 奈良橋庚申塚に3番目の自動交通信号機設置

#### 昭和43年(1968)

- 2月 北多摩西部消防組合を設立  
大和町商工会法人組織となる
- 3月 初の町立高木保育所(4月開所)  
一小防音改築(2期)、一小分校新築工事完成  
(各鉄筋3階建・防音)  
町勢要覧「緑と住宅のまち・大和町」刊行  
都市計画「大和芝中団地」決定
- 4月 大和第四小学校(一小分校独立)、大和第五  
小学校(二小併設)開校

- 5月 五小新築工事完成(鉄筋3階建・防音)  
西武上水線拝島まで延長、拝島線となる
- 7月 上水道第2配水場建設工事始まる
- 8月 一中防音改築工事始まる(鉄筋3階建・防音)
- 9月 救急搬送業務を開始  
交通災害共済制度できる  
村山・大和電報電話局の電話加入数が1万本  
を超えたことを記念し、同名称の福島県「山  
都町」と記念通話を行う
- 11月 報酬審議会が発足

#### 昭和44年(1969)

- 3月 二中体育館新築工事進む  
最初の都市計画公園として「末広公園」完成
- 4月 六小開校(三小併設)
- 6月 新青梅街道開通(奈良橋～芋窪)
- 7月 北多摩西部消防組合庁舎完成
- 8月 二中・一小・四小・五小プール完成  
二中体育館完成
- 9月 土地開発基金制度設置
- 11月 六小新築校舎完成  
東大和市体育協会結成される
- 12月 「大和音頭」できる

#### 昭和45年(1970)

- 1月 町が全国町村会長から優良町村として表彰  
される
- 2月 生活を守る会結成、モーター反対運動起こ  
る
- 3月 芝中団地に876戸入居  
一中防音改築工事完成  
二番目の都市計画公園「山王公園」完成  
第2配水場完成  
庁舎用地を取得
- 4月 五小内に学童保育所開設  
南街老人福祉館完成  
市制施行懇談会開かれる
- 7月 六小プール完成
- 9月 6投票区を9投票区に変更
- 10月 (1日)市制施行し市名「東大和市」に、(18  
日)記念式典開催、10～11月にかけて市制  
施行記念行事(商工展示会、農業振興共進  
会、市民体育大会、文化祭等)行われる  
(人口45,902人・戸数13,264戸)
- 11月 四小・五小増築工事完成
- 12月 市街化区域と市街化調整区域の区分決定

## 昭和46年(1971)

- 2月 市の機構改革で部制が発足3部20課となる  
東大和市社会福祉協議会設立
- 3月 3番目の都市計画公園として「高木児童公園」が完成  
市で初めての都市下水路事業としての東部  
一号下水路完成  
南街専用水道が市に移管
- 4月 都立東大和高校開校  
市立第七小学校開校  
市議・市長選挙実施（市長に尾崎清太郎氏  
が初当選）昭和30年から16年間にわたり市  
政を担ってきた根岸昌一氏勇退  
市の議員定員26人となる
- 5月 市議会議長川鍋恵一氏・副議長立川倉人氏  
選出  
狭山南保育園開所
- 6月 東大和市立公民館（南街公民館）開館  
市立第三中学校の用地を取得  
東京都市収益事業組合に加入
- 7月 七小プール完成  
国民年金受給者第1号誕生（6人）  
東大和市文化協会結成される
- 10月 第2回市民体育大会行われる  
五小・六小増築工事完成
- 11月 第1回市民文化祭・産業祭行われる  
東京都下25市一斉にノーカーデー実施  
都市計画河川「空堀川」決定  
町名地番整理審議会発足

## 昭和47年(1972)

- 3月 町名地番整理実施基準決まる
- 4月 土葬が禁止となる  
三中開校  
特別保育制度実施  
奨学資金貸付制度発足  
市の人口5万人を超える
- 5月 村山保健相談所が開設  
奈良橋派出所ができる
- 7月 学童保育所第三クラブ開設  
収入役に原仁平氏就任
- 8月 「野草教室」開かれる
- 9月 市立第八小学校新築工事始まる  
東大和市善意銀行開設  
四小・七小・一中・三中新・増築工事が完了

- 10月 「東大和市廃棄物の処理及び清掃に関する  
条例」施行  
肢体不自由児通園施設「やまとあけぼの学  
園」開園  
「建築協定に関する条例」施行
- 11月 「東部土地区画整理事業施行区域」を都市  
計画決定
- 12月 東京流域下水道計画決定  
都市計画「東大和緑地」決定

## 昭和48年(1973)

- 1月 大和基地向こう3年以内の返還決まる
- 2月 東大和市土地開発公社設立  
八小開校
- 3月 第二学校給食センター完成  
更生保護相談所開設  
大和基地対策本部発足  
四小体育館完成  
一小開校50周年（記念式典開催）
- 4月 「みどりの保護・育成に関する条例」施行  
「文化財保護条例」施行  
大和基地対策協議会発足  
「やまとあけぼの学園」で訪問学級始まる  
第二学校給食センター開設
- 5月 芋窪地区の町名地番整理実施される  
大和基地対策市民大会開かれる  
市議会議長に杉本昌治氏・副議長尾又大六  
氏  
助役に中澤重一氏就任
- 6月 大和基地対策協議会・本部、国・都に要請  
書提出  
東村山保健所開設  
狭山丘陵でトウキョウサンショウウオの卵  
発見される  
休日診療始まる  
大和基地の全面返還決まる  
教育長に石井俊光氏就任
- 7月 学童保育所第四クラブ完成  
芋窪老人集会所完成
- 9月 八小校舎完成  
七小体育館完成  
東部土地区画整理事業を開始
- 10月 大和基地対策協議会・本部、跡地利用につ  
いて都議会へ要請

11月 水道事業の経営を都に移管  
(新) 都市計画法による用途地域決定される  
大和基地跡地の運動施設の暫定使用覚え書き調印

12月 大和基地跡地の運動施設の一時使用決まる

#### 昭和49年(1974)

1月 お年寄り買物サービス始まる  
五小・六小増築工事完成

2月 市立第四中学校用地取得  
三中体育館完成  
第2次町名地番整理「桜が丘」誕生  
大和基地対策協議会、市民のための跡地利用で国会に請願

3月 東大和緑地追加決定

4月 消防事務東京都に委託

5月 全国市長会へ地方財政対策の改善を提案  
狭山保育所開所

6月 大和基地対策協議会、基地跡地利用で警視庁に要請

7月 東大和市公共下水道計画(案)まとまる

8月 中央公民館開館  
東大和市公民館を南街公民館に名称変更  
「清水地区」町名地番整理実施  
三小防音改築工事完成

9月 市の文化財に9件を指定

11月 東大和市公共下水道計画決定される

12月 市民のための基地跡地利用で第3次国会請願  
結婚相談所開設

#### 昭和50年(1975)

1月 大和基地跡地利用、都議会請願採択保留

2月 みどりの推進委員12人決まる  
七小・二中増築工事完成

3月 空カン収集に市民5,000人参加  
埋蔵文化財分布調査で先土器時代の石器多数発見  
大和基地跡地利用問題で、都知事選候補に公開質問状

4月 休日急患診療所開所  
北多摩西部消防署東大和出張所業務開始  
市議・市長選挙実施(市長に尾崎清太郎氏再選)  
武蔵大和駅前に自転車置場できる

5月 市報、新聞折込で配布始まる  
市議会議長立川倉人氏・副議長杉本大吉氏選出

6月 天然ガス転換作業始まる

7月 心配ごと相談所開設  
上仲原公園、都市計画事業として認可される

9月 「狭山地区」町名地番整理実施  
大和基地跡地運動施設平日使用可能になる

10月 国勢調査実施される  
消防団第5回東京都消防大会で優勝  
瑞穂、羽村埋立地へのごみ廃棄中断  
市の木にけやき・市の花につつじ決まる  
三中増築完成

11月 小平・村山・大和衛生組合に粗大ごみ処理施設完成  
災害弔慰金、災害援助資金制度できる

#### 昭和51年(1976)

1月 国が大和基地跡地利用計画案を発表  
東京都が大和基地跡地利用第1次・第2次案を発表

大和基地対策本部・同対策協議会代表、基地跡地の市民利用で都へ要請

2月 多摩湖遺跡群発掘調査開始  
教育長に石井俊光氏再任  
東部地域311.22ヘクタール公共下水道事業認可

3月 多摩湖遺跡群発掘調査終わる  
二ツ池都市計画公園として計画決定  
市立第九小学校新築工事始まる

4月 市の組織改正5部27課になる  
国民健康保険税率改正  
四中開校

5月 多摩湖発掘調査の資料整理・研究、市民参加で始まる

6月 宅地開発等指導要綱施行  
保存樹木の指定・緑化基準スタート  
国有財産中央審議会、基地跡地処分方針として三分割・有償を最終決定

7月 狭山公民館開館  
四中プール完成

二ツ池公園都市計画事業として認可

8月 市内で連続不審火発生  
西多摩郡羽村・瑞穂両町住民と東大和市な

ど9市の間、当面のごみ投棄の継続につき  
和解成立

- 10月 消防団第5回全国消防操法大会で団旗竿頭  
綬を受ける  
東大和市報発行200号になる  
市の人口6万人を超える
- 11月 「奈良橋地区」町名地番整理実施  
基地跡地三分割・有償反対の署名に14,000  
人が協力  
桜が丘地区で不発弾発掘  
青梅橋踏切立体交差化工事始まる

#### 昭和52年(1977)

- 1月 移動図書館「みずうみ号」巡回開始
- 2月 「蔵敷地区」町名地番整理実施  
公共施設緑化作戦実施  
大和基地対策協議会・本部、国へ三分割・  
有償処分反対で陳情・請願
- 3月 「野草の証言」発刊  
都市計画道路19号線新青梅街道以南開通  
上仲原公園基本計画決定
- 4月 消防団員定数189人となる  
むこうはら児童館・向原老人福祉館開館  
九小開校  
「野草の証言」刊行の記念講演会開催
- 5月 市民農園開設  
市議会議長立川倉人氏・副議長杉本大吉氏  
選出  
助役に中澤重一氏再任
- 6月 大和基地対策協議会、参院選各党各会派へ  
公開質問状  
九小プール完成  
有価物回収、モデル地区で開始  
宅地開発等指導要綱一部改正  
「東大和グリーンタウン」建設計画市に申  
し入れる
- 7月 「東大和グリーンタウン」計画、「宅地開発  
等事業計画審査願」市に提出
- 8月 「上北台地区」町名地番整理実施  
九小体育館完成
- 9月 大和基地対策協議会・本部、都議会へ請願  
再審査を要請
- 10月 「東大和グリーンタウン」計画、計画戸数  
変更で審査願再提出
- 11月 学童保育所第六・七クラブ開設

中小企業振興事業団「東大和研修生宿泊施  
設」開館

- 日影規制、地元説明会開催  
一中開校30周年（記念式典開催）
- 12月 東大和警察署建設工事着工

#### 昭和53年(1978)

- 2月 「立野地区」町名地番整理実施  
東大和市民葬儀制度スタート  
「東大和グリーンタウン」計画、宅地開発  
(株)と協定締結  
基地跡地の教育施設用地払い下げ条件で渉  
外知事会、大蔵省が合意  
上の台遺跡で平安時代の住居跡などを発掘  
四小開校10周年（記念式典開催）
- 3月 消防団消防庁長官から団旗竿頭綬を受ける
- 4月 ニツ池公園開園
- 7月 東大和高校野球部、西東京大会で準優勝
- 8月 「中央地区」町名地番整理実施  
四小増築工事完成
- 9月 八幡谷戸遺跡調査で、縄文時代の住居跡を  
発掘
- 10月 日影規制条例施行  
学童保育所第一クラブ開設及び従前設置さ  
れた各学童保育所の名称を各学校の名称と  
同一名称に変更  
「教員主任」制度化
- 11月 蔵敷公民館開館  
初めて市政功労者表彰で186人を表彰
- 12月 東大和警察署開署  
宅地開発等指導要綱一部改正  
四中増築工事完成

#### 昭和54年(1979)

- 1月 高齢者事業団対象者意向調査実施  
五小開校10周年（記念式典開催）
- 2月 「多摩湖地区」町名地番整理実施  
消防団都知事から団旗竿頭綬を受ける  
はしかの予防接種実施
- 3月 「のぞみ集会所」開所  
青梅橋駅前広場計画地元説明会開催  
「青梅橋駅」を「東大和市駅」に改称
- 4月 「とうがい児童館」開館  
市議・市長選挙実施（市長に尾崎清太郎氏  
三選）  
「信愛デイケアセンター」開設

- 5月 高齢者事業団設立  
市議会議長古滝直衛氏・副議長斎藤一男氏  
選出
- 6月 休日急患診療所移転東大和公園開園
- 7月 市立第十小学校新築工事始まる
- 9月 大和基地跡地利用問題で、市長・都知事に  
都・市一体案の早期策定を要請
- 10月 国民年金特例納付融資制度実施  
学童保育所第十クラブ開設
- 12月 新庁舎の基本設計まとまる  
六小開校10周年（記念式典開催）

#### 昭和55年(1980)

- 3月 「多摩湖の歴史＝湖底の遺跡と村の発掘」  
を発刊  
鹿島台遺跡調査で5000年前の埋ガメ等を発掘
- 4月 市立道技場・十小・上北台児童集会所を開  
設  
難病患者福祉手当制度スタート  
大和基地対策本部・同協議会の代表、東京  
都に大和基地跡地利用第3次案の早期策定  
を要請  
第2回市文化財を指定（10件）
- 5月 貯水池周囲道路整備始まる
- 6月 環境週間に「緑に親しむ集い」開催、市民  
400人が参加  
基本構想づくりが始まる
- 7月 東大和市駅が高架駅となる  
大和基地跡地利用、東京都第3次案発表  
市の人口6万5,000人突破
- 8月 大和基地跡地利用第3次都案について市民  
報告会を開催  
「市民憲章案」答申される
- 9月 基本構想策定のための“市民懇談会”開催  
新庁舎建設の起工式行われる  
大和基地対策本部会、第3次都案について条  
件付合意を表明  
市議会も同決議を採択する
- 10月 市制施行10周年  
「南街地区」町名地番整理実施  
「市民憲章」制定  
基本構想“地区別懇談会”を開催  
大和基地跡地利用第3次都案について意  
見・要望を付して合意回答する

- 災害時の応急用米穀供給協定を東大和市米  
穀小売商組合と締結  
収入役に関田豊氏就任
- 丸山遺跡調査で先土器時代の礫群を発掘
- 11月 ボランティア推進モデル地区の指定を都か  
ら受ける
- 12月 南街の富士見通りを“挨拶道路”に指定（社  
会福祉協議会）

#### 昭和56年(1981)

- 2月 新庁舎建設工事始まる  
七小開校10周年（記念式典開催）
- 3月 貯水池周囲道路整備工事完成  
鹿島台西遺跡調査で8000年前の土器を発見
- 4月 上仲原公園開園  
中小企業勤労者生活資金の融資あつせん開始  
新堀集会所開所  
大和基地跡地についての国の処分方針案が  
提示される  
大和基地跡地利用について市民集会を開催
- 5月 大和基地跡地利用についての国の処分方針  
案を了承する旨都知事あて回答  
国際障害者年福祉レクリエーション大会開  
催  
市議会議長古滝直衛氏・副議長斎藤一男氏  
選出  
助役に中澤重一氏再任
- 6月 東大和市駅前広場整備計画（案）住民説明  
会開催  
福祉タクシー制度がスタート
- 7月 「大和基地対策協議会」を解散し、「大和基  
地跡地利用を促進する会」を結成
- 8月 大和基地跡地利用促進協議会の発足  
東部土地区画整理事業換地処分
- 9月 町名地番整理「仲原」・「向原」・「清原」・「新  
堀」の誕生とともに、市内全域の町名地番  
整理事業が完了
- 11月 市道路線（10路線）の愛称を決定

#### 昭和57年(1982)

- 1月 東大和市駅前広場の都市計画決定される
- 2月 大和基地跡地の高校、駅前広場、道路用地  
の払い下げを国が決定
- 4月 市立第五中学校開校  
ごみ有価物集団回収報奨金制度をスタート  
狭山南保育園を向原保育園に、とうがい児

童館をきよはら児童館に名称変更 6月 東大和市駅前広場整備の事業認可を都より受ける

非核都市宣言に関し、市議会が決議  
三小開校20周年（記念式典開催）

10月 中央三丁目に本庁舎移転

11月 八小開校10周年（記念式典開催）

12月 東大和市基本構想策定  
中央図書館の建設工事始まる

#### 昭和58年(1983)

1月 大和基地跡地の都立公園、都市計画決定される

2月 老人保健法がスタート

3月 弁天遺跡発掘調査で石核が発見される  
第3回市文化財を指定（8件）  
一小開校60周年（記念式典開催）

4月 市議・市長選挙実施（市長に尾崎清太郎氏四選）  
「住宅改善資金融資制度」と「小企業近代化資金利子補給制度」がスタート  
金婚祝品制度できる

5月 市議会議長宮鍋二郎氏・副議長比留間茂氏選出

6月 旧庁舎跡地利用計画案答申

8月 「非核・平和の実現を求める声明」を市長が発表

#### 昭和59年(1984)

1月 有害ごみ分別収集をスタート

3月 東大和市基本計画決定

4月 教育長に野村恒行氏就任  
日の出町谷戸沢の“ごみ新処分場”使用開始  
大和基地跡地内に都立東大和南高校開校  
中央図書館開館  
市立狭山緑地開園

5月 保健センター・みのり福祉園同時開設  
「電子計算機に係る個人情報保護審議会」発足

7月 「善行青少年表彰制度」スタート

8月 市民プール開設  
旧庁舎跡地の「複合施設」の建設工事始まる  
「東大和の屋敷神」発刊  
野火止用水に清流が復活

9月 収入役に関田豊氏再任

大和基地跡地の住宅・商業施設の跡地処分決まる

10月 有害ごみ共同処理スタート

11月 住民記録オンラインシステム稼働

#### 昭和60年(1985)

4月 老人給食サービス事業スタート

5月 奈良橋市民センター開館

大和基地跡地への公営住宅建設始まる  
市議会議長比留間茂氏・副議長下条清治氏選出

助役に中澤重一氏再任

6月 公共下水道一部使用開始

防災行政無線開局

行政改革推進本部発足

7月 東大和保健相談所の建設工事始まる

8月 東大和市駅前広場の基本設計まとまる  
行政改革推進委員会発足

10月 市制施行15周年

市民体育館の基本設計まとまる

市立狭山緑地の一部を都市計画、「東大和狭山緑地」として決定

11月 市の人口7万人を超える

二小開校30周年（記念式典開催）

二中開校20周年（記念式典開催）

#### 昭和61年(1986)

2月 上ノ台遺跡で敷石住居跡発見される

3月 「今はむかし大和村」発刊

婦人行動計画検討市民委員会発足

空堀川調節池(芋窪地区及び狭山・高木地区)整備工事完成

四中開校10周年（記念式典開催）

4月 多摩都市モノレール(株)創立

野火止用水に流水路(せせらぎ)・遊歩道が完成

5月 都立東大和保健相談所開設

郷土館建設検討委員会発足

6月 行財政改革中間答申でる

都立東大和公園内に野球場・テニスコートが完成

第1回環境市民のつどい開催

8月 清水集会所・清水ゲートボール場開設

9月 市民体育館建設工事始まる

新堀地区会館建設工事始まる

10月 九小開校10周年（記念式典開催）

12月 桜が丘市民広場の整備工事始まる

#### 昭和62年(1987)

- 1月 「東大和狭山緑地」区域変更
- 2月 情報公開制度審議会発足
- 3月 行財政改革実施方針(その1)策定される  
消防団消防長官から表彰旗受ける
- 4月 市議・市長選挙実施(市長に尾崎清太郎氏  
五選)  
桜が丘団地(580戸)の入居完了  
「基準点」を利用したオリエンテーリングポ  
イント設置
- 5月 市長尾崎清太郎氏が東京都市長会会長に就  
任  
新堀地区会館・新堀ゲートボール場開設  
桜が丘市民広場使用開始  
市議会議長比留間茂氏・副議長黒木雄也氏  
選出
- 6月 ひとりぐらし老人等の安全を確保する「緊  
急通報システム」開始  
下立野林間こども広場開設  
都立東大和南公園運動広場使用開始
- 7月 保育問題協議会設置
- 8月 モノレール関連の都市計画道路変更
- 10月 市歌調査検討委員会答申でる
- 11月 市が自治大臣から地方自治功労者として表  
彰される  
四小開校20周年(記念式典開催)

#### 昭和63年(1988)

- 1月 用途地域見直し素案まとまる  
情報公開制度審議会から市長に提言
- 2月 行財政改革の最終答申が提出される  
都立東大和公園で、永仁2年(1294年)銘の  
板碑発見される
- 3月 郷土館建設検討委員会の答申が提出される  
「東大和緑地」区域変更
- 4月 市民体育館開館  
都市計画税率100分の0.3が100分の0.28に  
引き下げられる  
教育長に野村恒行氏再任
- 6月 婦人行動計画検討市民委員会から市長に提  
言「東大和市婦人行動計画の策定について」  
「多摩湖」をカラー印刷した「絵入り名刺」を  
作成  
モノレール関連の都市計画道路事業認可

五小開校20周年(記念式典開催)

- 7月 「多摩湖」・「カタクリ」テレホンカード発売  
市民ホール建設懇談会設置
- 8月 中央・南街地区複合館建設協議会設置  
市町村総合体育大会を本市が主管して実施
- 10月 収入役に石川博氏就任
- 11月 六小開校20周年(記念式典開催)  
一中開校40周年(記念式典開催)
- 12月 玉川上水駅前広場実施設計まとまる

#### 平成元年(1989)

- 1月 消防団が東京消防庁消防総監表彰を受ける
- 2月 「婦人問題に関する市民意識調査」報告書ま  
とまる
- 3月 大和基地跡地留保地解除決定される  
中央・南街地区複合館建設協議会より答申  
でる  
市内の道に沿って歴史や文化財を記録した  
映画「ふるさと東大和～道」完成  
野火止橋開通  
東大和市駅前広場完成  
一中体育館改築工事終わる
- 4月 市民税(個人分)課税内容改正  
街の植樹祭の開催地となる
- 5月 防災行政無線(固定系)開局  
基本計画を補正  
市議会議長森田益美氏・副議長黒木雄也氏  
選出  
助役に中澤重一氏再任  
第4回市文化財を指定
- 6月 保育問題協議会より答申でる  
東大和緑地区域変更
- 8月 テレホンカード第2次販売  
地域づくり事業検討委員会発足
- 10月 用途地域等変更  
十小開校10周年(記念式典開催)
- 11月 青少年健全育成センターを一中敷地内に開  
所  
都市計画道路名称変更  
市の面積が13.52平方キロメートルから  
13.54平方キロメートルに変更(建設大臣公  
告)

#### 平成2年(1990)

- 1月 (仮称)東大和市立郷土博物館建設基本構想  
を報告



- 2月 玉川上水駅前広場供用開始
- 3月 多摩湖自転車道路に多摩湖橋完成
- 4月 東やまと20景決定  
花いっぱい運動開始  
ひとり親家庭医療費助成事業スタート  
武蔵大和駅前に自転車置場新設  
東大和市情報公開条例施行
- 6月 市立狭山緑地内のフィールドアスレチック  
供用開始  
ゆとり宣言に関し、市議会が決議
- 7月 重度視覚障害者ガイドヘルパー派遣事業開始  
東大和市地域づくり事業検討委員会より報告受ける  
市民意識調査実施
- 8月 高齢者実態調査実施市立狭山緑地地域変更  
「NHK夏期巡回ラジオ体操」を都立東大和南公園で実施
- 9月 「ふれあいイベント20」を開催  
高齢者憲章の制定
- 10月 市制施行20周年  
東大和市情報公開条例施行  
(仮称)東大和市立郷土博物館基本設計まとまる  
「みなくるサイクルフェスタ'90」開催  
平和都市・交通安全都市を宣言  
多摩モノレール建設工事、起工式行われる
- 12月 東大和市婦人行動計画まとまる  
桜が丘地区で不発弾発掘  
七小開校20周年(記念式典開催)

### 平成3年(1991)

- 2月 東大和市歌作成委員会を設置  
第1回婦人フォーラムを開催  
東大和芋窪緑地が都市計画緑地に決定  
故吉岡堅二画伯邸一部を文化施設用地として、東大和市土地開発公社が先行取得する
- 3月 東大和の年中行事の記録映画「ふるさと東大和くらしとまつりの記憶」完成  
(仮称)桜が丘第二団地420戸の建設始まる
- 4月 高木こども広場オープン  
市議・市長選挙実施(市長に中澤重一氏が初当選)  
昭和46年から20年間にわたり市政を担ってきた尾崎清太郎氏勇退

- 故吉岡堅二画伯の絵画(5点)が遺族から寄贈される  
都市計画税率100分の0.28が100分の0.26に引き下げられる
- 5月 市議会議長榎本和雄氏・副議長武石岩男氏選出
- 6月 南街出張所が廃止される
- 7月 助役に石川博氏、収入役に安島喜一氏就任  
清水市民広場開設  
玉川上水駅前に東大和警察署の派出所開所
- 9月 有価物回収ボックス、市内5か所に設置される  
(仮称)東大和市郷土博物館の建設工事始まる
- 10月 東大和市史の編さん始まる  
武蔵村山郵便局開局  
都市計画道路3・4・26号線の整備に着手  
(南街4丁目～南街1丁目までの740mの区間について事業認可される)
- 11月 市役所窓口業務、毎月第二・第四土曜日が休みとなる  
第2回多摩湖タイムサイクルレース開催  
「市民ごみ会議」を開催  
三中創立20周年(記念式典開催)  
五中創立10周年(記念式典開催)
- 12月 有価物回収ボックスの愛称「かんがるー」に決定  
五中開校10周年(記念式典開催)

### 平成4年(1992)

- 1月 老人性白内障治療のため「人口水晶体購入費用の一部助成事業」をスタート  
東大和市消防団が東京消防庁消防総監賞優良表彰を受賞  
慶性門の改修が完了
- 3月 清水大橋の完成  
東大和の昭和初期の子どもたちの遊びを再現した記録映画「ふるさと東大和わらべ遊び」完成  
上仲原公園野球場夜間照明施設完成
- 4月 中央第二こども広場オープン  
都立北多摩看護専門学校開校  
教育長に野村恒行氏再任
- 5月 「火災による死者ゼロ」の日、2,000日を達成

成(S61.12.1~H4.5.23)

一小開校70周年(記念式典開催)

7月 都立東大和療育センター完成

9月 「市の歌」「イメージソング」の歌詞を募集  
小・中学校毎月第2土曜日が休みとなる

10月 三小開校30周年(記念式典開催)

11月 市役所の窓口が毎週土曜日休みとなる  
電話予約による「住民票の写し」の交付事業  
開始

三小開校30周年(記念式典開催)

八小創立20周年(記念式典開催)

#### 平成5年(1993)

3月 「上北台駅周辺土地区画整理事業施行区域」  
を都市計画決定  
市歌、イメージソング6点が入選、作曲を募集

多摩湖自転車道完成

4月 東大和市駅前に屋内スケート場オープン  
多摩東京移管百周年記念事業開幕  
第二次基本計画決定

5月 南街・桜が丘市民センター開館

上北台市民センター開館

公民館で「住民票の写し」の交付事業始まる  
市議会議長武石岩男氏・副議長田村日出男  
氏選出

東大和ファーマーズセンター開園

6月 「ホテルの里づくり事業」としてヘイケボタル  
を飼育

7月 桜が丘図書館開館

「多摩21くらしの祭典VOICE93」国営  
昭和記念公園で開催(～11月まで)

8月 景観まちづくり事業「東大和ランドアート  
展」開催(～10月29日まで)

9月 (仮称)東大和市立郷土博物館の建物本体工  
事が竣工する

10月 福島県山都町と姉妹都市を提携

市の歌「輝る未来へ」を制定

イメージソング「夢色の羽根を」を決定

上北台駅周辺土地区画整理事業を開始

「であいふれあいフェスティバル」をVOICE  
93会場で開催

#### 平成6年(1994)

3月 地域福祉計画(愛称「みんなの和21プラン」)  
決定

4月 21世紀のまちづくりを目指して組織改正が  
行われる

高齢者福祉施設「さくら苑」開設

申請書類の約30%を押印(ハンコ)廃止する  
用途地域等の見直し素案まとまる

2年6か月の歳月をかけて建設された郷土

博物館が開館

桜が丘保育園開園

5月 芋窪地区集会所開設

6月 市史編さん室及び教育相談室が旧南街公民  
館へ移転する

7月 びん・缶等の資源物の収集区域の拡大によ  
り、収集日を変更する

8月 公共工事の入札・契約制度の試行的実施方針  
まとまる

12月 暫定リサイクル施設稼働

#### 平成7年(1995)

1月 兵庫県南部地震災害義援金の受付窓口を開  
設

東大和市駅周辺のまちづくり指針を策定

3月 都市計画道路3・4・22号線が全線開通

立野一丁目土地区画整理事業、都市計画道路  
7・5・1号線を都市計画決定

東大和市史資料編第1・2・3巻「軍需工場と  
基地と人びと」「多摩湖の原風景」「発掘さ  
れた先人のくらし」の刊行  
都営向原団地建替事業始まる

4月 市議・市長選挙実施(市長に尾又正則氏が初  
当選)

平成3年から市政を担ってきた中澤重一氏勇  
退

市議会議員定数25人となる

仲原地区集会所開設

市民ホール建設基本構想審議会答申でる

「いのちと平和」をテーマに戦後50年平和事  
業を決定

廃棄物減量等推進審議会「東大和市における  
ごみ減量の進め方」答申でる

5月 市議会議員榎本和雄氏・副議長尾崎信夫氏選  
出

消費生活相談に専門相談員を設置

7月 助役に石川博氏、収入役に安島喜一氏再任廃  
棄物減量等推進員を設置

8月 紙・布の資源ごみ収集を開始

戦後50年広島平和祈念式派遣事業で市民5組  
10人を派遣

10月 自転車等放置防止等に関する条例が施行され、東大和市・玉川上水・武蔵大和の各駅  
周辺に自転車等放置禁止区域を指定  
行政改革推進委員会を設置

12月 立野一丁目土地区画整理事業を開始  
政治倫理の確立のための東大和市長の資産  
等の公開に関する条例制定  
二小開校40周年（記念式典開催）  
二中創立30周年（記念式典開催）

#### 平成8年(1996)

1月 都市計画道路3・4・17号線と小平市の都市計  
画道路を結ぶ東野火止橋が開通

3月 生涯学習推進審議会「東大和市における生涯  
学習計画のあり方」答申で  
東大和市史資料編4・5巻「新しいまち南街」  
「狭山丘陵と生きものたち」の刊行

4月 助役に米田武司氏、収入役に内堀利一氏、教  
育長に中村水生氏就任  
東大和市地域福祉審議会を設置

5月 中央図書館で水曜日（午後8時まで）夜間開  
館開始

10月 市民意識調査実施

11月 九小開校20周年（記念式典開催）

12月 四中創立20周年（記念式典開催）

#### 平成9年(1997)

1月 湖畔地区集会所開設

2月 行政改革推進委員会「東大和市の行政改革に  
ついて」答申で

3月 東大和市史資料編第6・7巻「中世～近世から  
の伝言」「里正日誌の世界」の刊行

4月 村山大和保健所開設  
母子保健事業等が都から市に移管される  
市及び市議会で国・東京都に対して財政支援  
に関する要請行動を行う

5月 市議会議長森田益美氏・副議長田村日出男氏  
選出

6月 東大和市行政手続条例施行

7月 東大和市行政改革大綱策定

10月 ごみ、資源ごみの収集回数を変更  
四小開校30周年（記念式典開催）  
一中創立50周年（記念式典開催）

11月 第1回商工まつり、農業まつり開催

老人保健施設「東大和ケアセンター」開設  
都営向原団地建替事業第1期完了（299戸入  
居）

12月 武蔵村山郵便局と災害協定締結

#### 平成10年(1998)

3月 東大和市生涯学習推進計画策定  
東大和市史資料編第8巻「信仰のすがたと造  
形」の刊行

6月 玉川上水踏切立体交差開通  
五小開校30周年（記念式典開催）

7月 東大和市駅前にアミューズメント施設オー  
プン  
東大和市駅前に行政コーナー・警察官立ち寄  
り所開設  
桜が丘図書館で日曜開館開始  
東大和市市税徴収対策本部を設置

8月 在宅寝たきり高齢者訪問歯科診療開始

11月 多摩モノレールの上北台駅～立川北駅間が  
開通  
六小開校30周年（記念式典開催）

#### 平成11年(1999)

3月 都営東京街道団地建替事業始まる  
地域振興券交付開始  
東大和市史資料編第9巻、第10巻刊行  
（市史資料編の全10巻が完成）  
ひがしやまと文化財ガイド刊行

4月 保育園11時間保育開始  
姉妹都市山都町訪問個人宿泊補助事業開始  
二小に通級指導学級開設  
市議・市長選挙実施（市長に尾又正則氏再選）  
市議会議員定数22人となる  
学童保育事業保護者負担導入

5月 市議会議長清水弘氏・副議長佐村明美氏選出

7月 社会福祉協議会でさわやかサービス（子育て  
支援）事業開始

8月 人にやさしい～車いすで行ける～トイレマ  
ップ°作成

10月 緑の基本計画策定  
在宅寝たきり高齢者訪問歯科診療対象枠拡  
大  
介護保険事業計画中間取りまとめ報告書作  
成  
コンピュータ西暦2000年問題危機管理計  
画策定

- 大和南保育園子育てひろば開設
- 緊急財政対策プラン策定
- 十小開校20周年（記念式典開催）
- 12月 市民ホールの愛称が「ハミングホール」に決定

**平成12年(2000)**

- 1月 多摩モノレール全線開通
- 2月 東大和市都市マスタープラン策定
- 3月 南街老人福祉館全面改修  
芋窪老人集会所建替え  
東大和市史（通史）編刊行  
東大和市介護保険事業計画策定
- 4月 高齢者在宅サービスセンターむこうはら開設  
介護保険制度開始  
助役に佐久間榮昭氏、収入役に味村昌幸氏、教育長に山川登志行氏就任  
一般家庭のし尿くみ取り有料化開始
- 5月 向原市民センター開設
- 6月 高齢者在宅サービスセンターむこうはらサービス開始
- 7月 粗大ごみリサイクル製品展示・販売開始
- 10月 東大和市ホームページ開設
- 11月 都営向原団地建替事業第2期完了（369戸入居）
- 12月 上北台駅周辺土地整理事業換地処分  
七小開校30周年（記念式典開催）

**平成13年(2001)**

- 1月 消防団消防総監から表彰旗受ける
- 2月 市制施行30周年記念式典  
東大和市男女共同参画都市宣言  
東大和市民会館（ハミングホール）落成式典
- 3月 東大和市男女共同参画計画策定
- 4月 二中に通級指導学級開設
- 6月 市議会副議長松浦誠氏選出
- 7月 放置自転車のリサイクルを開始  
都市計画道路7・5・4号線を都市計画決定
- 9月 中央・桜が丘両図書館で祝日開館（土日と重なる日）開始
- 10月 東大和市市税徴収対策本部設置  
東大和市特定公共物管理条例施行  
徘徊高齢者等居場所お知らせサービス事業開始

- 11月 東大和市第2次行政改革大綱策定  
東大和市定員適正化計画策定  
東大和市財政健全化計画策定  
東大和市立学校規模等適正化審議会設置  
五中創立20周年（記念式典開催）  
三中創立30周年（記念式典開催）
- 12月 東大和市第二次基本構想策定

**平成14年(2002)**

- 1月 東大和市第2次行政改革大綱推進計画策定
- 4月 東大和市子ども家庭支援センター開設  
誠愛保育園子育てひろば開設
- 10月 都営東京街道団地建替事業第1期完了 441戸入居  
八小創立30周年（記念式典開催）
- 11月 三小開校40周年（記念式典開催）  
一小開校80周年（記念式典開催）
- 12月 第三次基本計画策定（決定）  
東大和市駅エレベーター・エスカレーター  
身障者トイレ供用開始  
高齢者在宅サービスセンターきよはら・高齢者在宅介護支援センターきよはらサービス開始

**平成15年(2003)**

- 2月 東大和市コミュニティバス「ちょこバス」運行開始
- 3月 休日急患診療所再築
- 4月 東村山市及び東大和市の図書館の相互利用に関する協定を締結  
市議・市長選挙実施（市長に尾又正則氏再選）
- 5月 市議会議長森田憲二氏・副議長下条学氏選出  
都営向原団地建替事業第3期完了(386戸入居)  
市内小・中学校（6校）へ少人数学習指導員・学校図書館指導員の配置
- 7月 東大和市立図書館ホームページを開設  
インターネット検索、CD-ROM閲覧を開始
- 10月 市の人口8万人を超える  
精神障害者地域生活支援センター「ウェルカム」開設  
一小コンピュータ教室へコンピュータ導入  
福島県山都町と姉妹都市の盟約を締結して10周年を迎えたことを記念し、「姉妹都市

10周年記念式典」を山都町で実施

**平成16年**(2004)

- 3月 総合行政ネットワーク(LGWAN)への接続  
東大和市情報化推進計画策定
- 4月 助役に佐久間榮昭氏再任、収入役に岸永通氏就任、教育長に山川登志行氏再任  
中央図書館で週2日夜間開館を開始  
教育相談員(訪問相談担当)を2人配置
- 6月 住宅・店舗リフォーム資金助成制度開始
- 8月 「東部土地地区画整理事業施行区域」を都市計画変更し廃止
- 10月 学童保育所第四クラブ改築  
三小・五小・七小コンピュータ教室へコンピュータ導入  
一中・二中・三中・四中・五小コンピュータ教室へコンピュータ導入
- 12月 二小コンピュータ教室へコンピュータ導入  
東大和市環境基本条例制定

**平成17年**(2005)

- 3月 東大和市ホームページ再構築  
東大和市男女平等を基本とした男女共同参画の推進に関する条例制定  
東大和市次世代育成支援計画～すこやか親子支援5か年計画～策定
- 5月 図書館内の利用者用端末機からのリクエスト受付開始  
市議会議長松浦誠氏・副議長押本治雄氏選出
- 10月 二小開校50周年(記念式典開催)  
二中創立40周年(記念式典開催)
- 11月 防災情報マップ作成  
四小・六小・八小・九小・十小コンピュータ教室へコンピュータ導入
- 12月 個人情報保護条例制定

**平成18年**(2006)

- 1月 姉妹都市である福島県山都町が喜多方市・熱塩加納村・塩川町・高郷村と合併し、喜多方市山都町となる
- 2月 指定管理者制度基本方針策定
- 3月 東大和市中改革プラン策定
- 6月 清水出張所廃止  
清原市民センター開設
- 7月 助役に小飯塚謙一氏就任、教育長に佐久間

榮昭氏就任

- 10月 四中創立30周年(記念式典開催)
- 11月 九小開校30周年(記念式典開催)
- 12月 東大和市第3次行政改革大綱策定

**平成19年**(2007)

- 1月 清原図書館開館
- 2月 東大和市環境基本計画策定
- 3月 第1期東大和市障害福祉計画策定  
都市計画道路3・5・20号線の一部区間開通
- 4月 出前講座(多摩湖塾)開始  
市議・市長選挙実施(市長に尾又正則氏再選)
- 5月 市長尾又正則氏が東京都市長会会長に就任  
市長尾又正則氏が東京都市区長会会長に就任  
市役所(本庁舎)の土曜開庁の試行実施  
市議会議長佐村明美氏・副議長石川庄太郎氏選出
- 9月 青色回転灯パトロールカー巡回開始
- 11月 生涯学習人材バンク制度開始  
四小開校40周年(記念式典開催)  
一中創立60周年(記念式典開催)

**平成20年**(2008)

- 1月 東大和市産業振興基本条例施行
- 3月 東大和市農業振興計画策定
- 4月 後期高齢者医療制度開始  
教育長に佐久間榮昭氏再任
- 5月 市長尾又正則氏が東京都市長会顧問に就任  
第三次基本計画(補正)策定
- 10月 元気な東大和再生プラン策定
- 12月 五小開校40周年(記念式典開催)  
六小開校40周年(記念式典開催)

**平成21年**(2009)

- 1月 コンピュータによる戸籍事務処理運用開始
- 3月 村山下貯水池(多摩湖)堤体強化工事完成  
都市計画道路3・4・26号線開通  
東大和市地区計画区域内建築条例改正  
第1次東大和市障害者計画 第2期東大和市障害福祉計画策定
- 4月 市内全地域で、容器包装プラスチックの分別収集開始  
東大和市生活安全条例制定  
市民会館(ハミングホール)の管理運営を指定管理者に移行定額給付金申請書受付開始

- 5月 市議会議長粕谷洋右氏・副議長尾崎信夫氏選出
- 10月 元気な東大和再生プラン平成21年度版策定  
十小開校30周年（記念式典開催）
- 12月 市施設に関する地上デジタル放送対応計画策定  
公共施設4箇所コミュニティビジョン（※）を設置  
※ 民間企業広告と自治体情報を放映するモニター

**平成22年(2010)**

- 1月 「東やまと市報」発行1000号になる
- 3月 東大和市保育計画策定
- 4月 体育施設等の管理運営を指定管理者に移行
- 7月 副市長に氏井博氏就任
- 9月 市制施行40周年記念式典
- 10月 東大和市街づくり条例施行
- 11月 七小開校40周年（記念式典開催）

**平成23年(2011)**

- 2月 市民ロビーに広告看板設置
- 3月 西武多摩湖線武蔵大和駅にエレベーター等が設置されリニューアル  
東大和市下水道総合計画及び経営健全化計画策定
- 4月 市議・市長選挙実施（市長に尾崎保夫氏初当選）  
土曜開庁本格実施
- 5月 市議会議長尾崎信夫氏・副議長関田貢氏・監査委員関田正民氏選出
- 6月 事業系一般廃棄物有料化を拡大
- 7月 市長と語ろう会（タウンミーティング）開催
- 8月 東大和市災害時要援護者避難支援プラン（全体計画）策定
- 10月 教育長に小島昇公氏就任
- 11月 高齢者見守りネットワーク～大きな和～開始  
三中開校40周年（記念式典開催）  
五中開校30周年（記念式典開催）

**平成24年(2012)**

- 1月 東大和市第4次行政改革大綱策定
- 4月 副市長に小島昇公氏・教育長に真如昌美氏就任  
福島県喜多方市と友好都市協定締結  
高齢者ほっと支援センターなんがい開設

- 第1回東大和市グルメコンテスト“うまかんべえ～祭”開催
- 東大和市及び武蔵村山市の図書館の相互利用に関する協定締結
- 5月 市民ロビーに庁舎案内板（広告付）設置
- 7月 （仮称）東大和市総合福祉センター基本計画策定  
第1回東大和市まちフォトコンテスト実施
- 9月 市政情報コーナー開設
- 11月 第1回東大和市スイーツウォーキング開催  
東大和市学校給食基本計画策定  
三小開校50周年（記念式典開催）
- 12月 東大和市第二次基本構想改訂  
東大和市第四次基本計画策定

**平成25年(2013)**

- 1月 八小開校40周年（記念式典開催）
- 2月 一小開校90周年（記念式典開催）
- 3月 東大和市事業継続計画策定  
東大和市一般廃棄物処理基本計画策定  
東大和市子ども読書活動推進計画策定  
東大和市産業振興基本計画策定  
東大和市住宅マスタープラン（住生活基本計画）策定
- 4月 学童保育所桜が丘クラブ開所  
高齢者見守りぼっくすならはし開設
- 5月 市議会議長尾崎信夫氏・副議長関田正民氏・監査委員大后治雄氏選出  
東大和市民大学開設
- 9月 東大和市中で第68回国民体育大会（正式競技「ボウリング」・デモンストレーションとしてのスポーツ行事「スポーツチャンバラ」）開催
- 11月 家庭系廃棄物有料化方針策定
- 12月 東大和市学校教育振興基本計画策定

**平成26年(2014)**

- 3月 郷土博物館プラネタリウムリニューアルオープン  
東大和市下水道総合地震対策計画策定
- 4月 高齢者見守りぼっくすしんぼり開設  
玉川上水集会所開設
- 6月 市道路線（4路線）の愛称を決定
- 7月 暮らし・しごと応援センター「そえる」開設
- 10月 家庭廃棄物有料化開始
- 12月 東大和市特別支援教育推進計画策定

## 平成27年(2015)

- 1月 ふれあい広場開設
- 2月 第1回東大和市男女共同参画フェスタ開催  
東大和市職員の市民協働の推進に関する指針策定  
玉川上水駅バリアフリー施設整備事業の完了(ホームの点状ブロックに内包線ブロックを整備)
- 3月 東大和市都市マスタープラン改定  
東大和市の面積(平成26年10月1日現在)が13.42平方キロメートルに変更(国土地理院公表)  
東大和市及び立川市の図書館の相互利用に関する協定締結
- 4月 高齢者見守りぼっくすなんがい開設  
東大和市子ども・子育て支援事業計画策定  
立野一丁目土地区画整理事業地区内都市計画道路開通  
東大和市健康増進計画策定  
東大和市新型インフルエンザ等対策行動計画策定  
市議・市長選挙実施(市長に尾崎保夫氏再選)
- 5月 市議会議長関田正民氏・副議長中間建二氏・監査委員押本修氏選出
- 6月 (株)ロンド・スポーツとの東大和市体育施設等ネーミングライツ協定締結(平成27年10月から愛称使用開始)
- 7月 市役所本庁舎及び現業棟の耐震補強工事開始  
東大和市の教育に関する大綱策定
- 9月 臨時福祉給付金申請書受付開始
- 10月 市民センター及び公民館のインターネット予約開始  
東大和市人口ビジョン及び東大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定  
二小開校60周年(記念式典開催)
- 11月 二中開校50周年(記念式典開催)

## 平成28年(2016)

- 2月 (株)イトーヨーカ堂と(株)セブン-イレブン・ジャパンとの地域活性化包括連携協定締結  
証明書等のコンビニ交付開始
- 3月 東大和市下水道事業業務継続計画策定
- 4月 都市計画道路3・5・20号線の一部区間開通  
全小学校に特別支援教室、三中に通級指導学

## 級設置

- 副市長に小島昇公氏、教育長に真如昌美氏再任
- 5月 特色ある公園整備基本方針策定  
ジェイコム多摩との災害情報放送に関する協定締結
- 9月 臨時福祉給付金申請書受付開始
- 10月 東大和市総合福祉センター「は〜とふる」開設  
九小開校40周年(記念式典開催)  
ふるさと納税を活用した旧日立航空機株式会社変電所の保存等を目的とする寄附金の受入開始
- 11月 東京2020オリンピック・パラリンピックフラッグツアーのセレモニーを東やまと産業まつりで開催  
四中開校40周年(記念式典開催)

## 平成29年(2017)

- 1月 東大和市第5次行政改革大綱策定
- 2月 東大和市公共施設等総合管理計画策定
- 3月 第二次東大和市環境基本計画策定  
第二次東大和市特別支援教育推進計画策定  
東大和市生涯学習・生涯スポーツ推進計画策定
- 4月 医療法人徳寿会プラチナ・ヴィラとの福祉避難所の開設等の協定締結  
東大和市学校給食センター開設
- 5月 旧吉岡家住宅主屋兼アトリエ外3件の登録有形文化財の登録  
市議会議長押本修氏・副議長蜂須賀千雅氏・監査委員床鍋義博氏選出
- 6月 東京都との多摩広域防災倉庫の協定締結
- 7月 東京都水道局との避難所における応急給水栓設置に伴う覚書締結
- 10月 四小開校50周年(記念式典開催)  
市のブランド・メッセージデザイン決定
- 11月 東京都建設局との避難場所となる都立東大和南公園における連携協力に関する基本協定締結  
一中開校70周年(記念式典開催)

## 平成30年(2018)

- 1月 日本郵便(株)武蔵村山郵便局及び東大和市内郵便局との地域における協力に関する協定締結

- |     |  |     |  |
|-----|--|-----|--|
| 3月  | 一般社団法人東京都建築士会立川支部との災害時における被災建築物応急危険度判定業務に関する協定締結<br>東大和市制50周年記念事業実施方針策定<br>第3次東大和市農業振興計画策定<br>第二次東大和市子ども読書活動推進計画策定 | 7月  | 民の健康づくりに関する連携協定締結<br>プレミアム付商品券購入引換券交付申請開始  |
| 4月  | 関東学院大学法学部との政策研究及び人材育成の推進に関する協定締結<br>NPO法人クライシスマッパーズ・ジャパンとの災害時における無人航空機を活用した支援活動等に関する協定締結                           | 10月 | プレミアム付商品券使用期間開始（令和2年3月1日まで）<br>HOYA株式会社アイケアカンパニーとの使い捨てコンタクトレンズ空ケースの回収に係る協定締結<br>十小開校40周年（記念式典開催） |
| 5月  | あいおいニッセイ同和損害保険株式会社との地方創生に関する連携協定締結<br>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東大和市取組方針策定                                       | 11月 | 東京における都市計画道路の在り方に関する基本方針策定   |
| 8月  | リコージャパン株式会社との地方創生に係る包括的地域連携に関する協定締結  | 12月 | ㈱ロンド・スポーツとの体育施設等のネーミングライツ・パートナーに関する協定締結  |
| 10月 | 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた東大和市アクションプラン策定<br>六小開校50周年（記念式典開催）   |     |  |
| 11月 | （仮称）東大和市新総合計画策定方針策定<br>五小開校50周年（記念式典開催）  |     |  |

#### 平成31年(2019)

- |    |   |
|----|---|
| 2月 | 第二次東大和市学校教育振興基本計画策定   |
| 3月 | 一般社団法人東京都トラック協会多摩支部との災害時における緊急輸送業務に関する協定締結<br>東大和市制50周年記念事業の実施に向けた東大和市アクションプラン策定<br>健幸都市の実現に向けた東大和市健康寿命延伸取組方針策定<br>第二次東大和市緑の基本計画策定<br>東大和市立学校における教員の働き方改善計画策定 |
| 4月 | 市議・市長選挙実施(市長に尾崎保夫氏再選)<br>教育長に真如昌美氏再任  |

#### 令和元年(2019)

- |    |  |
|----|--|
| 5月 | 市議会議長中間建二氏・副議長蜂須賀千雅氏・監査委員和地仁美氏選出<br>㈱セブン-イレブン・ジャパンとのペットボトル自動回収機に関する協定締結<br>東京大学未来ビジョン研究センターとの市 |
|----|--|



## 4. 憲章・都市宣言

### 東大和市市民憲章（昭和55年10月1日制定）

東大和市は 多摩湖と狭山丘陵の美しい自然に恵まれ 人間味あふれる明るいまちです

わたくしたちは このまちの市民であることに誇りをもち 未来への発展と向上を願ひ市民憲章を定めます

わたくしたちは

- 1 たがいに手をつなぎ 市民としての責任をはたしましょう
- 1 健康で働き 生活を楽しみ 明るい家庭をつくりましょう
- 1 老人や子供に心をくばり みんなのしあわせを築きましょう
- 1 自然を大切にし きまりを守り 住みよい郷土をつくりましょう
- 1 まちの歴史に学び 好ましい伝統を育て子孫に引きつぎましょう

### 東大和市高齢者憲章（平成2年9月15日制定）

わたくしたち東大和市民は、すべての人が長生きをしてよかったと思えるような長寿社会の実現を願って、この憲章を定めます。

わたくしたちは

- 一、高齢者が、生き生きとした人生を送れるよう、健康と暮らしが守られるまちにしましょう。
- 一、高齢者が、長年にわたって社会の発展につくしてきた人として、敬愛されるまちにしましょう。
- 一、高齢者が、培ってきた豊かな知識と経験を、社会活動に役立てられるまちにしましょう。
- 一、高齢者が、地域の人々とふれあいをもち、互いに助け合えるまちにしましょう。
- 一、高齢者が、生涯を通して学び、生きがいをもって楽しく過ごせるまちにしましょう。

## 東大和市平和都市宣言（平成2年10月1日宣言）

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。  
世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。  
世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。  
ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

## 東大和市交通安全都市宣言（平成2年10月1日宣言）

我々東大和市民はすべて安全で快適な生活環境のもとに、健康で明るい生活をおくることがを希望している。  
しかしながら、我が国の産業・経済の進展、高齢化、情報化等社会情勢の変化にともない、交通量の増大と交通環境の複雑化により、本市における交通事故の発生も増加の傾向にある。  
これは、市民生活にとって大きな不安となっており、まことに憂慮すべき事態である。  
よって、市民一人一人が心を新たに、交通安全に対する意識を高めるとともに、交通災害のない安全なまちづくりに取り組むことを決意し、ここに、東大和市を交通安全都市とすることを宣言する。

## 東大和市男女共同参画都市宣言（平成13年2月18日宣言）

美しい多摩湖と狭山丘陵の緑豊かな東大和市に住むわたしたちは 男女が互いの人権を尊重し 共に平等であることを基本として 性別にとらわれず あらゆる分野あらゆる環境において 一人ひとりの能力が十分発揮できる社会の実現をめざしここに東大和市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します

- 1 わたしたちは 一人ひとりが自立し 認め合い 自分らしくいきいきと暮らせるまちをつくります
- 1 わたしたちは 性別による差別をなくし 自らの意思で社会のあらゆる分野に参画できる 魅力あるまちをつくります
- 1 わたしたちは 家事・育児・介護などの責任を共に分かち合うまちをつくります
- 1 わたしたちは 国際社会の一員として 安心して暮らせる平和なまちをつくります



第8回東大和市まちフォトコンテスト（平成31年度実施）  
優秀作品「ワーイ、こいのぼりだあ」 撮影：木下 和芳 氏